

第1章 現況と基礎的調査

1-1 上位・関連計画の整理

1-1-1 県の計画

(1) 仙南広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

計画名	仙南広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
策定年次	令和2(2020)年2月
基本理念	蔵王連峰に抱かれた地域資源を活かして、圏域内外の人と文化が交流し、安心して住み続けられる広域生活圏の形成
都市計画の決定の方針	<p>【土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none">・居住や公共施設、生活サービス施設の計画的な更新・誘導による身近な生活圏の形成・市街地内低未利用地における新たな機能の整備や誘導、用途地域の変更などの検討・空家などの適切な管理や利活用・インターチェンジ周辺などへの新たな産業の立地誘導や既存産業の維持 <p>【都市施設（交通）】</p> <ul style="list-style-type: none">・既存道路の有効活用による交通需要への対応、階層的道路ネットワークの構築・長期未整備の都市計画道路の必要に応じた見直し・地域の実情に合わせた総合交通体系の構築 <p>【都市施設（下水道と河川）】</p> <ul style="list-style-type: none">・既存施設の適正な維持、管理と需要に応じた事業区域などの見直し・浸水区域の解消を図るための雨水排水施設整備の推進・多発する豪雨に対する安全性の向上に資する河川改修の推進・地域の景観や歴史・文化を活かした、水辺とまちが融合したかわまちづくりの推進 <p>【市街地開発事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・賑わいのある商業市街地、安全性・快適性の高い住宅市街地の形成・産業の立地誘導時における計画的な土地利用と都市基盤の整備 <p>【自然環境】</p> <ul style="list-style-type: none">・都市における潤いの創出、レクリエーションの場、災害時の避難場所など、多様な機能に資する公園・緑地整備の推進・長期未整備の都市計画公園・緑地の必要に応じた見直し・特徴的な風情を感じられるまち並みの保全・形成・「みやぎ蔵王」を活かした観光交流・インバウンドの促進、各観光施設のネットワークの形成 <p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none">・避難、救急活動、緊急物資輸送に資する広域的なネットワークの形成・建築物やライフラインの耐震化の促進、地すべり対策事業や砂防事業の推進、災害の危険性のある地域における市街化の抑制・水害に備えた河川管理施設の整備と適切な維持・管理・ハード整備と合わせたソフト対策の充実

1-1-2 市の計画

(1) 第六次白石市総合計画

計画名	第六次白石市総合計画
策定年次	令和3(2021)年4月
基本構想の将来像	人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし
分野目標	<p>目標1：人・文化を育む</p> <p>目標2：みんなで地域づくりを進める</p> <p>目標3：暮らしをともに支え合う</p> <p>目標4：安全・安心を守る</p> <p>目標5：活力・賑わいを創る</p> <p>目標6：まちの未来を描く</p>
<p>【基本計画】</p> <p>分野目標ごとの施策の方向性</p>	<p>分野目標6 まちの未来を描く</p> <p>6-1 豊かな自然環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林の適切な管理や優良な農地の保全と育成を行うことで、蔵王連峰などの美しい山岳や田園風景など自然景観の保全に努める。 ○自然とふれあえる場の整備、保全と適切な管理とともに、希少動植物が生息・生育できる環境の保全、創出に努め、生態系の保全に取り組む。 ○自然観察会などの体験学習を取り入れた環境学習や環境関連のイベントで、環境問題に関する情報の発信や普及・啓発を行う。 <p>6-2 快適な生活環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民が安全で安心して暮らすことができるよう、居住環境の整備や良質な水の安定供給、水質の保全、公害対策を行い、快適な生活環境の構築を目指す。 ○空き家の所有者と管理者に対する適正管理の支援と移住・定住の促進を図るため、空き家の活用・流通を促進する。 <p>6-3 道路・公共交通の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道路、橋梁などの状況把握に努め、適切な維持管理と長寿命化で、安心して通行できる道路環境の整備を推進する。 ○市民が利用しやすい市民バス、乗合タクシーの運行を継続するとともに、既存の公共交通では対応できない地域や高齢化のさらなる進展に伴う市民生活の足の確保を図るため、住民主体の移動・外出サービスの整備を検討する。 <p>6-4 魅力ある都市空間の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市計画道路の見直しで、過度な公共投資の抑制と効率的な都市計画道路の整備を図る。 ○市民の憩いの場や防災機能を有している公園や緑地を安全・安心に長期間利用できるように、市民協働による公園管理や緑化活動に取り組む。 ○豊かな自然の保護、適正な土地利用の確保のため、適正な開発行為の指導を行う。

(2) 白石市まち・ひと・しごと創生 「第2期総合戦略」

計画名	白石市まち・ひと・しごと創生 「第2期総合戦略」																																																							
策定年次	令和3 (2021) 年3月																																																							
基本目標	<p>【目標1】 魅力あふれるしごとと賑わいを創る</p> <p>(1) 農林産物などの高付加価値化と販路拡大支援 (2) 企業支援・新規企業誘致による働く場の創出 (3) 観光振興を通じた新たな魅力の発信 (4) 多様な働き方ができる就労環境の整備</p> <p>【目標2】 人の流れをつくり、つながりを築く</p> <p>(1) 多様な交流活動の促進と関係人口の拡大 (2) 移住・定住のための支援の充実 (3) 魅力ある景観・生活環境の構築</p> <p>【目標3】 妊娠・出産・子育ての希望をかなえ、子どもの輝きを育む</p> <p>(1) 妊娠期から切れ目のない包括的な支援と地域医療の充実 (2) 基礎的・基本的な学力の向上と特色ある教育の推進</p> <p>【目標4】 とともに支え合い、まちの未来を描く</p> <p>(1) 人と人が繋がり・誰もが活躍できる地域づくり (2) 健康で活力ある社会の推進 (3) 防災・減災対策の充実、地域における防災力の強化 (4) 持続可能な行財政運営の推進 (5) 魅力ある都市空間や道路・公共交通の整備 (6) 歴史遺産・伝統文化の継承と活用</p>																																																							
「人口ビジョン」が示す将来人口の展望	<p style="text-align: center;">将来展望人口</p> <p style="text-align: center;">令和22 (2040) 年：25,382 人 令和42 (2060) 年：18,076 人</p> <p>■総人口・年齢3区分別人口の将来展望</p> <table border="1"> <caption>将来展望人口 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>総人口</th> <th>0-14歳</th> <th>15-64歳</th> <th>65歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27 (2015)</td> <td>35,272</td> <td>3,872</td> <td>20,006</td> <td>11,200</td> </tr> <tr> <td>R2 (2020)</td> <td>33,113</td> <td>3,374</td> <td>17,786</td> <td>11,953</td> </tr> <tr> <td>R7 (2025)</td> <td>31,082</td> <td>2,986</td> <td>15,986</td> <td>12,110</td> </tr> <tr> <td>R12 (2030)</td> <td>29,206</td> <td>2,819</td> <td>14,481</td> <td>11,906</td> </tr> <tr> <td>R17 (2035)</td> <td>27,310</td> <td>2,724</td> <td>13,175</td> <td>11,411</td> </tr> <tr> <td>R22 (2040)</td> <td>25,382</td> <td>2,711</td> <td>11,659</td> <td>11,012</td> </tr> <tr> <td>R27 (2045)</td> <td>23,370</td> <td>2,676</td> <td>10,220</td> <td>10,474</td> </tr> <tr> <td>R32 (2050)</td> <td>21,480</td> <td>2,594</td> <td>9,105</td> <td>9,781</td> </tr> <tr> <td>R37 (2055)</td> <td>19,724</td> <td>2,415</td> <td>8,388</td> <td>8,921</td> </tr> <tr> <td>R42 (2060)</td> <td>18,076</td> <td>2,255</td> <td>7,914</td> <td>7,907</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27(2015)は、年齢不詳がいるため、区分別人口の合計が総人口と合わない。</p>	年次	総人口	0-14歳	15-64歳	65歳以上	H27 (2015)	35,272	3,872	20,006	11,200	R2 (2020)	33,113	3,374	17,786	11,953	R7 (2025)	31,082	2,986	15,986	12,110	R12 (2030)	29,206	2,819	14,481	11,906	R17 (2035)	27,310	2,724	13,175	11,411	R22 (2040)	25,382	2,711	11,659	11,012	R27 (2045)	23,370	2,676	10,220	10,474	R32 (2050)	21,480	2,594	9,105	9,781	R37 (2055)	19,724	2,415	8,388	8,921	R42 (2060)	18,076	2,255	7,914	7,907
年次	総人口	0-14歳	15-64歳	65歳以上																																																				
H27 (2015)	35,272	3,872	20,006	11,200																																																				
R2 (2020)	33,113	3,374	17,786	11,953																																																				
R7 (2025)	31,082	2,986	15,986	12,110																																																				
R12 (2030)	29,206	2,819	14,481	11,906																																																				
R17 (2035)	27,310	2,724	13,175	11,411																																																				
R22 (2040)	25,382	2,711	11,659	11,012																																																				
R27 (2045)	23,370	2,676	10,220	10,474																																																				
R32 (2050)	21,480	2,594	9,105	9,781																																																				
R37 (2055)	19,724	2,415	8,388	8,921																																																				
R42 (2060)	18,076	2,255	7,914	7,907																																																				

1-2 社会的広域的条件の整理

1-2-1 人口

(1) 総人口・世帯数

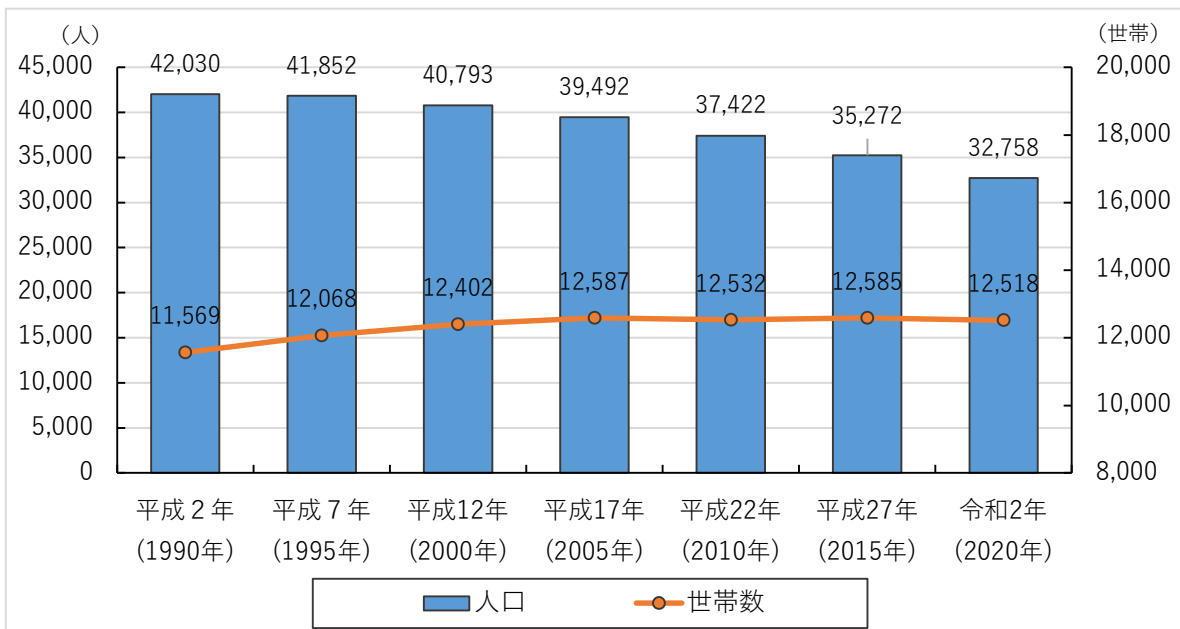
- 総人口は減少傾向が続く
- 世帯数は増加傾向、世帯あたり人員は減少傾向であり、核家族化が進行

- 令和2(2020)年における本市の総人口は32,758人であり、平成2(1990)年の42,030人から22.1%の減少(-9,272人)となっています。
- 令和2(2020)年における世帯数は12,518世帯であり、平成2(1990)年以降、増加傾向で推移し、平成17(2005)年以降は横ばいとなっています。
- 世帯あたり人員は平成2(1990)年の3.63人/世帯から減少傾向となっており、令和2(2020)年の2.62人/世帯まで減少しています。

図表 人口と世帯の推移

	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
人口(人)	42,030	41,852	40,793	39,492	37,422	35,272	32,758
世帯数 (世帯)	11,569	12,068	12,402	12,587	12,532	12,585	12,518
世帯あたり人員 (人/世帯)	3.63	3.47	3.29	3.14	2.99	2.80	2.62

資料：国勢調査



(2) 年齢別人口

- 年少人口、生産年齢人口が減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行
- 高齢化率は一貫して増加傾向

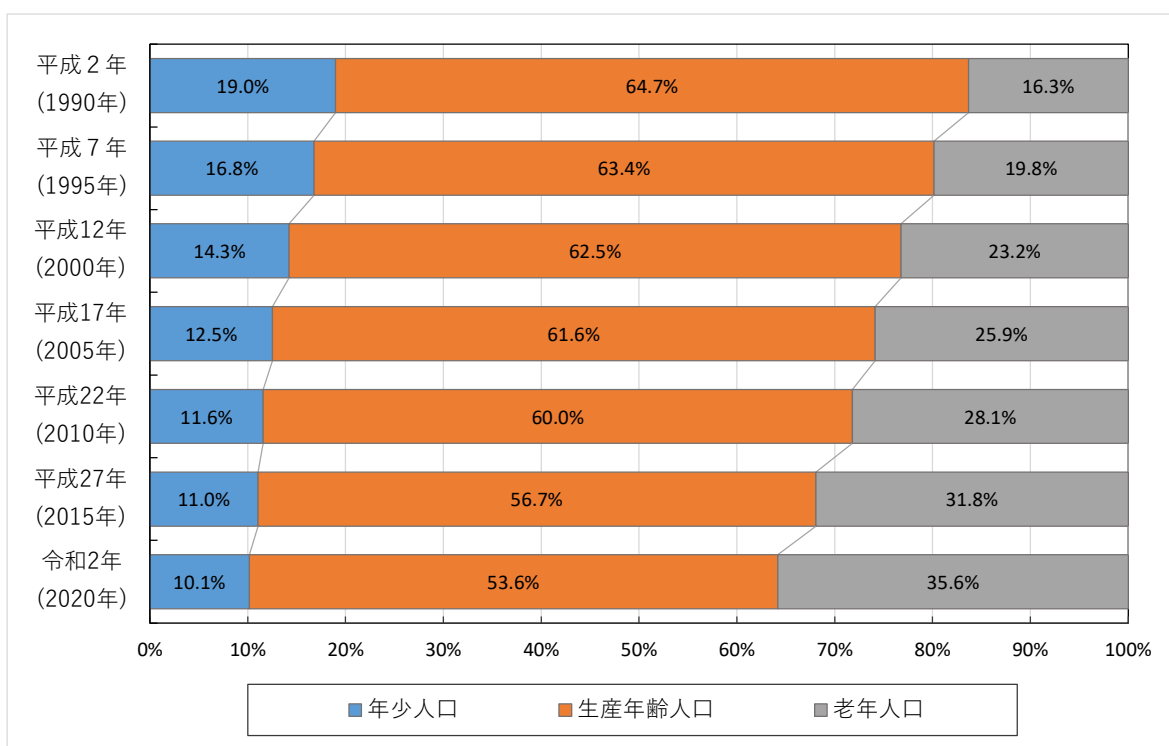
○令和2（2020）年の年少人口は3,303人（10.1%）、生産年齢人口は17,574人（53.6%）、老年人口は11,648人（35.6%）となっています。

○平成2（1990）年以降、年少人口、生産年齢人口が減少する一方、老年人口は1.5倍以上に増加しており、高齢化率も一貫して増加しています。

図表 年齢3階層別人口の推移

	年少人口		生産年齢人口		老年人口		総人口 (人)
	15歳未満 (人)	構成比 (%)	15歳以上 65歳未満 (人)	構成比 (%)	65歳以上 (人)	構成比 (%)	
平成2年（1990年）	7,983	19.0%	27,176	64.7%	6,858	16.3%	42,017
平成7年（1995年）	7,021	16.8%	26,528	63.4%	8,303	19.8%	41,852
平成12年（2000年）	5,816	14.3%	25,507	62.5%	9,470	23.2%	40,793
平成17年（2005年）	4,946	12.5%	24,328	61.6%	10,218	25.9%	39,492
平成22年（2010年）	4,324	11.6%	22,453	60.0%	10,514	28.1%	37,422
平成27年（2015年）	3,872	11.0%	20,006	56.7%	11,200	31.8%	35,272
令和2年（2020年）	3,303	10.1%	17,574	53.6%	11,648	35.6%	32,758

資料：国勢調査



1-2-2 産業

(1) 就業構造

■就業人口全体は減少傾向

■第1次産業と第2次産業の就業人口が減少、第3次産業の割合が増加

○平成27(2015)年の就業人口は16,667人で、平成2(1990)年から4,560人(21.5%)減少しています。

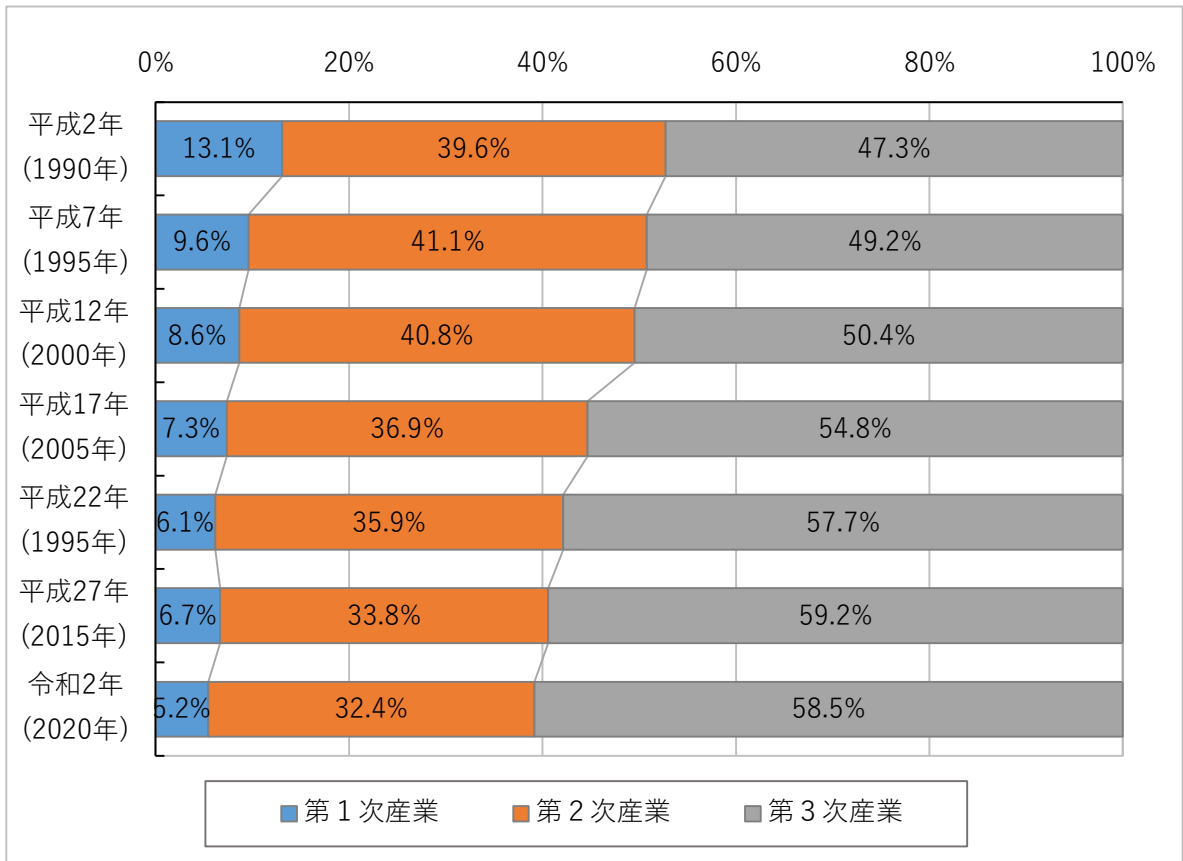
○平成27(2015)年の産業別の就業人口は、第3次産業が9,868人(59.2%)と最も多く、次いで第2次産業が5,631人(33.8%)、第1次産業が1,111人(6.7%)となっています。

○第1次産業と第2次産業の就業者の割合が減少している一方、第3次産業の割合は増加傾向となっています。

図表 就業者数の推移

(上段：人、下段：構成比)

	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
第1次産業	2,777 13.1%	2,011 9.6%	1,742 8.6%	1,399 7.3%	1,025 6.1%	1,111 6.7%	830 5.2%
第2次産業	8,414 39.6%	8,588 41.1%	8,233 40.8%	7,056 36.9%	5,988 35.9%	5,631 33.8%	5,147 32.4%
第3次産業	10,036 47.3%	10,264 49.2%	10,167 50.4%	10,485 54.8%	9,624 57.7%	9,868 59.2%	9,293 58.5%
総数	21,232	20,871	20,163	19,144	16,684	16,667	15,899



資料：国勢調査

(2) 農業

■就農者の高齢化や農業離れなどで、農家数、経営耕地面積ともに減少

○令和2（2020）年の農家数は1,411戸であり、平成17（2005）年から965戸（40.6%）減少しています。

○令和2（2020）年の経営耕地面積は1,421haで、平成17（2005）年から763ha（34.9%）減少しています。

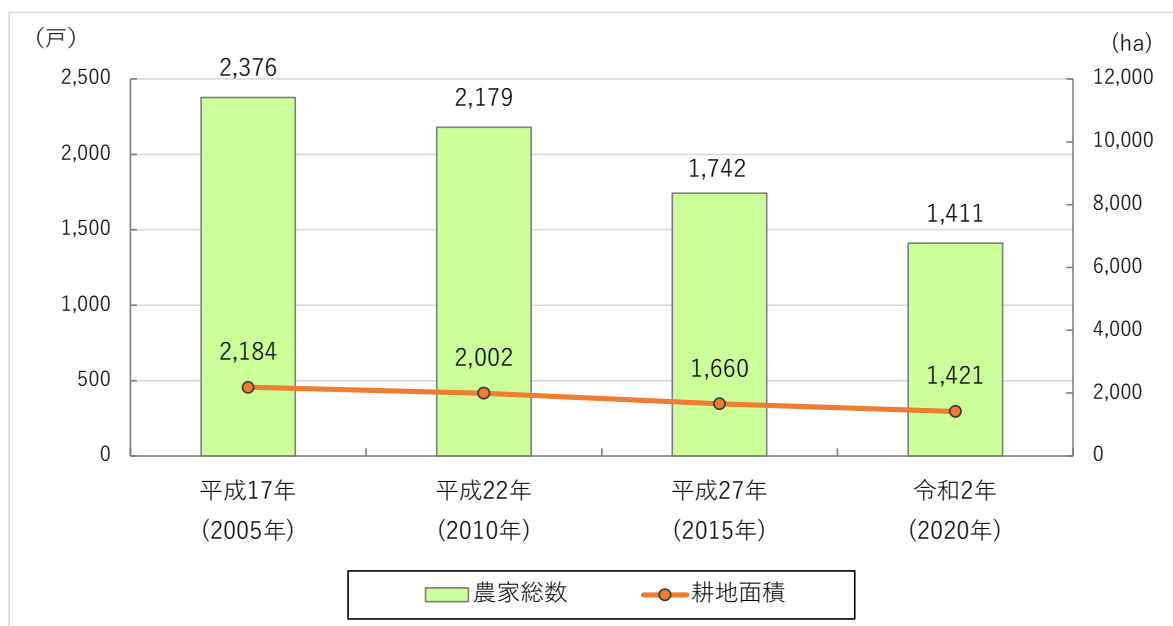
○就農者の高齢化や農業離れなどによる影響と考えられます。

図表 農家数、経営耕地面積の推移

	農家数(戸)				耕地面積 (ha)
	農家総数	自給的 農家	専業	兼業	
平成17年 (2005年)	2,376	617	265	1,494	2,184
平成22年 (2010年)	2,179	656	261	1,262	2,002
平成27年 (2015年)	1,742	593	230	919	1,660
令和2年 (2020年)	1,411	575	-	-	1,421

資料：世界農業センサス

※令和2年の専業・兼業農家の内訳は未公表



(3) 工業

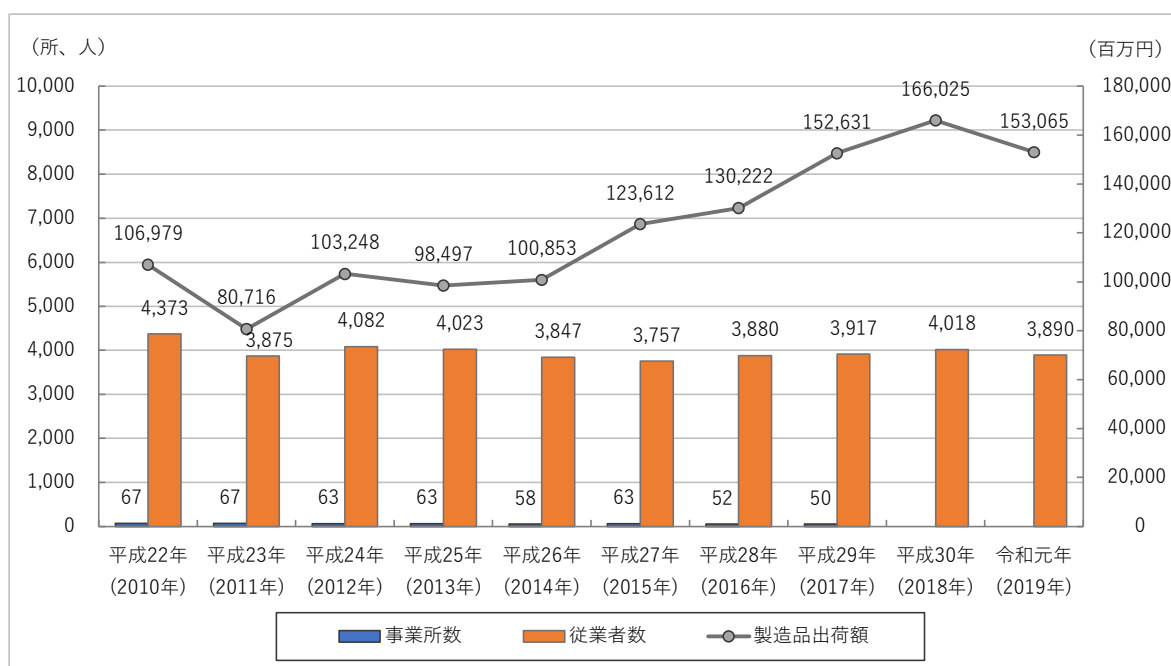
- 事業所数と従業者数はともに減少傾向
- 製造品出荷額は東日本大震災以降、増加傾向

- 令和元（2019）年の事業所数は49事業所で、平成22（2010）年から18事業所（26.9%）減少しています。
- 令和元（2019）年の従業者数は3,890人で、平成22（2010）年から483人（11.0%）減少しています。
- 令和元（2019）年の製造品出荷額は153,065百万円で、平成22（2010）年から46,086百万円（43.1%）増加しています。

図表 事業所数、従業者数、製造品出荷額の推移

	事業所数 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額 (百万円)
平成22年 (2010年)	67	4,373	106,979
平成23年 (2011年)	67	3,875	80,716
平成24年 (2012年)	63	4,082	103,248
平成25年 (2013年)	63	4,023	98,497
平成26年 (2014年)	58	3,847	100,853
平成27年 (2015年)	63	3,757	123,612
平成28年 (2016年)	52	3,880	130,222
平成29年 (2017年)	50	3,917	152,631
平成30年 (2018年)	49	4,018	166,025
令和元年 (2019年)	49	3,890	153,065

資料：工業統計調査



(4) 商業

■ 商店数と従業者数はともに減少傾向

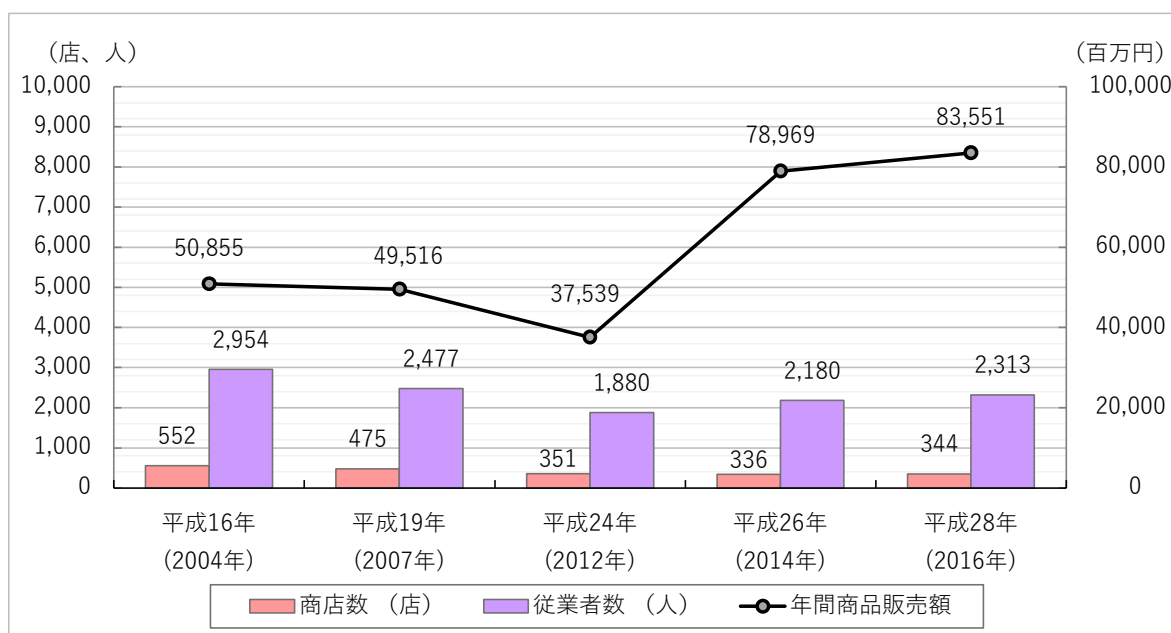
■ 年間商品販売額は増加傾向で、東日本大震災以降大きく増加した

- 平成 28 (2016) 年の商店数は 344 店舗で、平成 14 (2002) 年から 202 店舗 (37.0%) 減少しています。
- 平成 28 (2016) 年の従業者数は 2,313 人で、平成 14 (2002) 年から 694 人 (23.1%) 減少しています。
- 平成 28 (2016) 年の年間商品販売額は 83,551 百万円で、平成 14 (2002) 年から 35,908 百万円 (75.4%) 増加しています。

図表 商店数、従業者数、年間商品販売額の推移

	商店数 (店)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)
平成14年 (2002年)	546	3,007	47,643
平成19年 (2007年)	475	2,477	49,516
平成24年 (2012年)	351	1,880	37,539
平成26年 (2014年)	336	2,180	78,969
平成28年 (2016年)	344	2,313	83,551

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査



(5) 観光

■観光入込客数は近年増加傾向

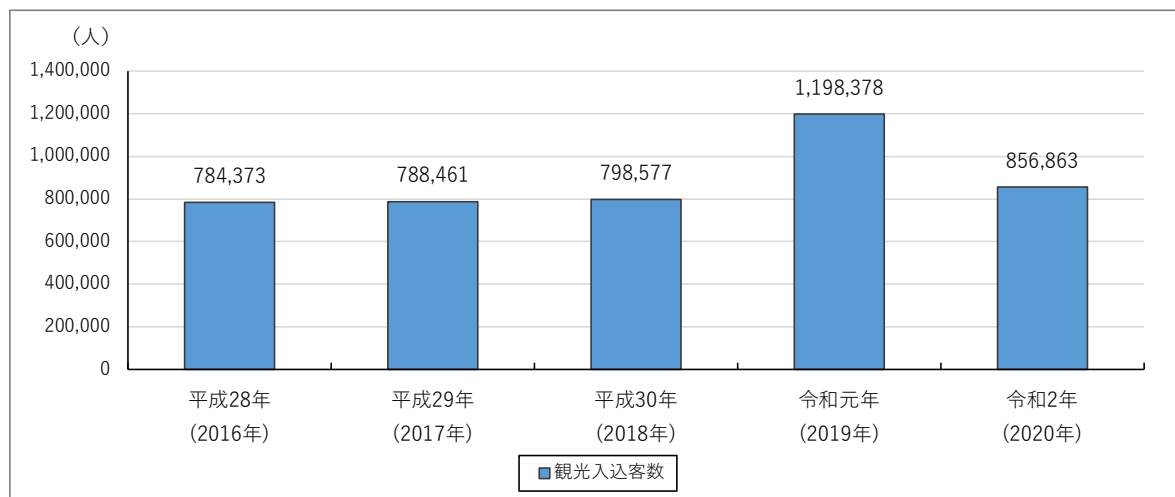
- 白石市の観光入込客数は、令和元（2019）年は例年に比べ大幅に増加し、1,198,378 人となり、令和2（2020）年は、856,863 人に減少しています。
- 本市の主な観光地は、白石城・武家屋敷など、材木岩・検断屋敷、スパッシュランドしろいし、鎌先温泉、小原温泉、白石スキー場などとなっています。

図表 観光入込客数の推移

(人)

	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
観光入込客数 (万人)	784,373	788,461	798,577	1,198,378	856,863

資料：宮城県観光統計概要



1-2-3 土地利用

(1) 都市計画の指定状況

■白石蔵王駅、白石駅を中心に用途地域が指定

■用途地域面積の合計は 955.5ha

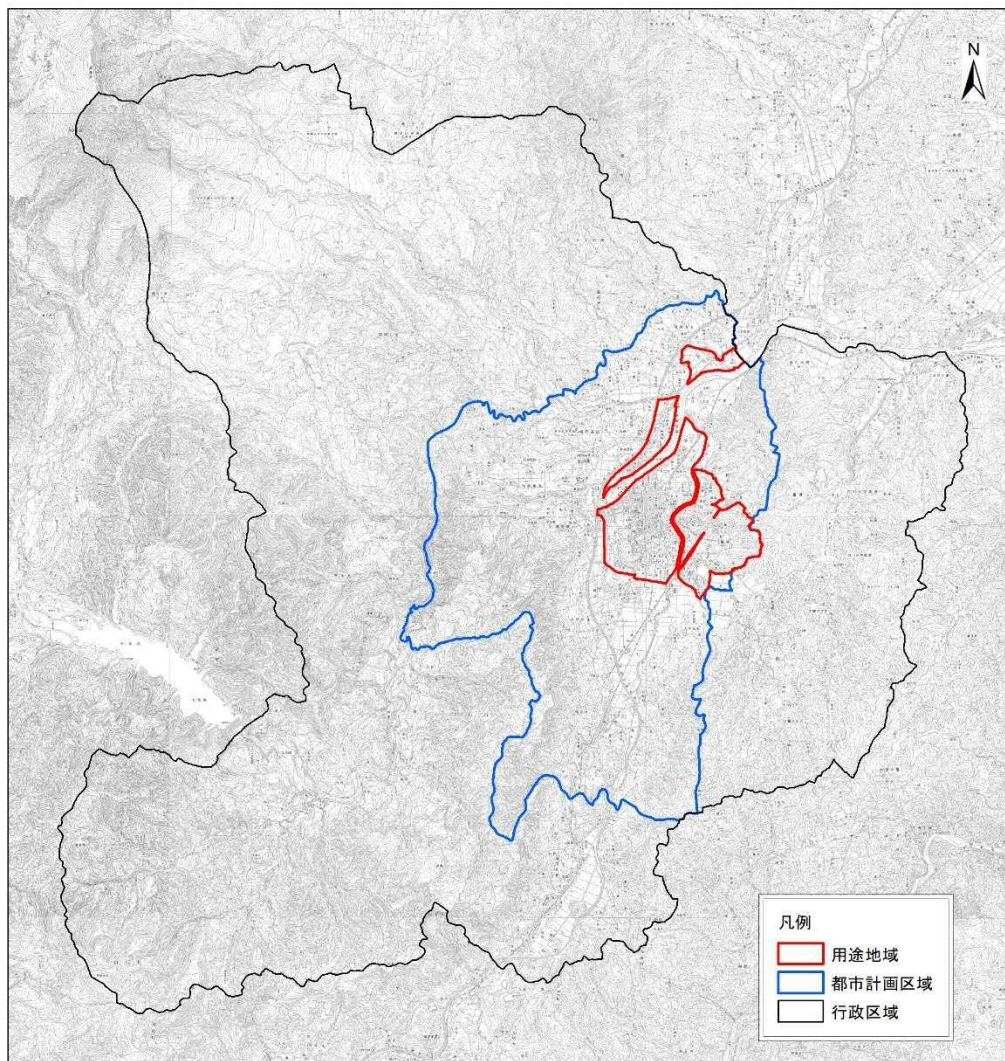
○本市の都市計画区域は 6,498.0ha であり、行政区域 (28,648 ha) の 22.7% を占めています。

○本都市計画区域は非線引き都市計画区域で、白石蔵王駅、白石駅を中心に 955.5 ha の用途地域が指定されています。

図表 都市計画区域と用途地域

区域名	面積 (ha)
用途地域	955.5
用途地域外 (非線引き白地)	5,542.5
都市計画区域 (計)	6,498.0

資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査



(2) 地目別土地利用状況

■都市計画区域の土地利用は、自然的土地利用が約 80%

■用途地域の土地利用は、都市的土地利用が約 70%

○都市計画区域の土地利用は、自然的土地利用が全体の 78.4%を占めており、その中では山林が 47.4%と高い割合になっています。

○用途地域の土地利用は、都市的土地利用が全体の 69.1%を占めており、建ぺい宅地が 47.8%と高い割合になっています。

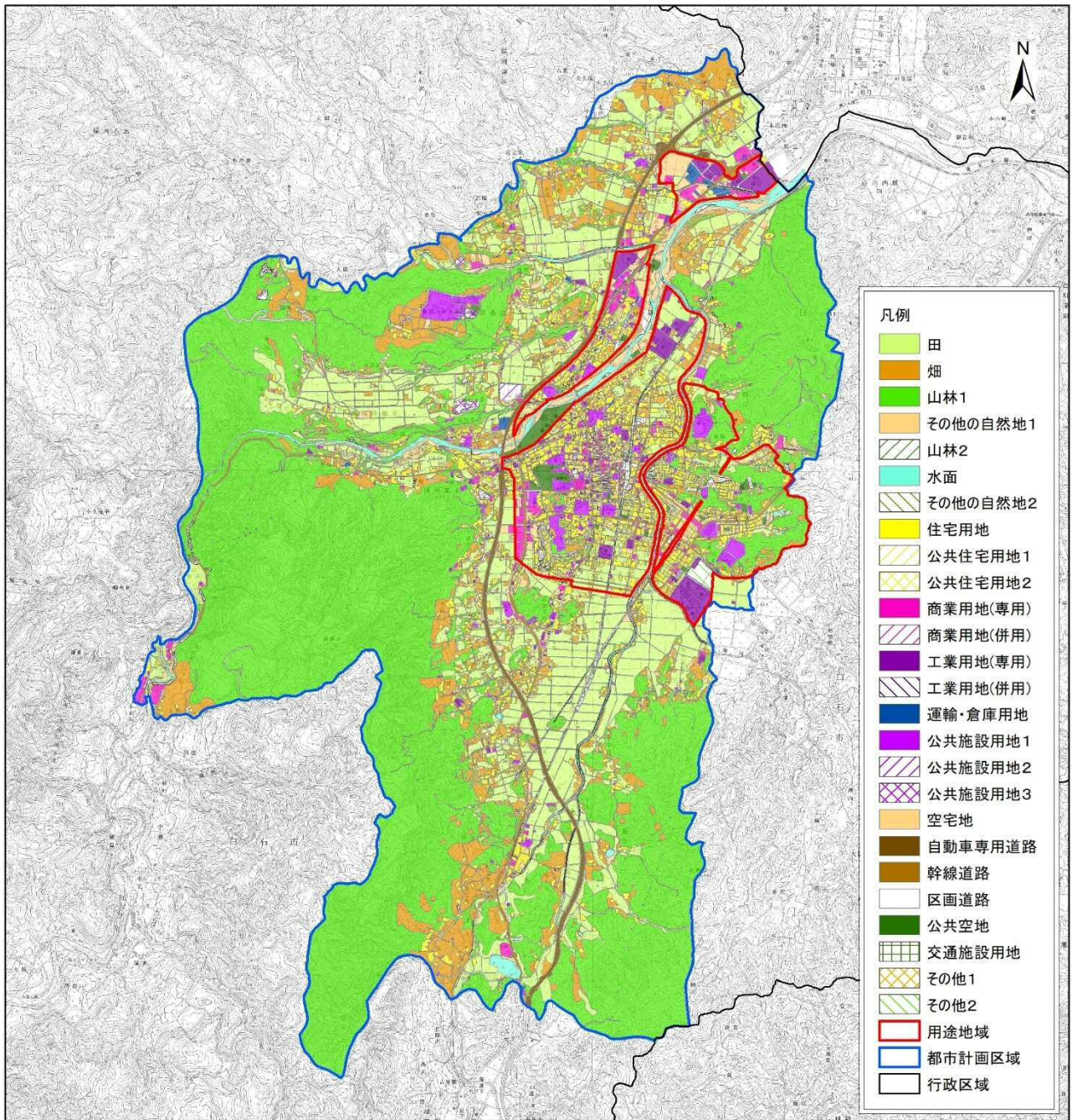
図表 土地利用状況

区域	区域面積 (ha)	用途地域外					用途地域				自然的土地利用 (ha)	
		田 (ha)	畑 (ha)	山林1 (ha)	その他 自然地1 (ha)	未利用 地 (ha)	山林2 (ha)	水面 (ha)	その他 自然地2 (ha)	その他 の緑地 (ha)		
行政区域	28,647.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
都市計画区域 (構成比)	6,498.0 100.0%	1,096.0 16.9%	633.5 9.7%	3,080.9 47.4%	141.3 2.2%	4,951.8 76.2%	1.4 0.0%	109.2 1.7%	35.0 0.5%	145.6 2.2%	5,097.4 78.4%	
用途地域 (構成比)	955.5 100.0%	89.7 9.4%	59.5 6.2%	104.2 10.9%	22.7 2.4%	276.1 28.9%	1.4 0.1%	10.8 1.1%	7.0 0.7%	19.3 2.0%	295.4 30.9%	
用途地域外 (構成比)	5,542.5 100.0%	1,006.3 18.2%	574.0 10.4%	2,976.7 53.7%	118.7 2.1%	4,675.6 84.4%	0 0.0%	98.4 1.8%	28.0 0.5%	126.3 2.3%	4,802.0 86.6%	

住宅 用地 (ha)	公共 住宅 用地 1 (ha)	公共 住宅 用地 2 (ha)	商業 用地			工業 用地		運輸・ 倉庫 用地 (ha)	公益 施設 用地 1 (ha)	公益 施設 用地 2 (ha)	公益 施設 用地 3 (ha)	建ぺい 宅地 (ha)	
			専用 商業 (ha)	併用 商業 (ha)	専用 工業 (ha)	併用 工業 (ha)							
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
473.0 7.3%	8.1 0.1%	0.6 0.0%	85.8 1.3%	31.0 0.5%	116.8 1.8%	84.8 1.3%	4.5 0.1%	89.3 1.4%	11.5 0.2%	101.2 1.6%	10.2 0.2%	10.3 0.2%	820.9 12.6%
223.2 23.4%	8.1 0.8%	0.6 0.1%	53.5 5.6%	19.1 2.0%	72.6 7.6%	76.6 8.0%	2.6 0.3%	79.2 8.3%	8.1 0.9%	58.0 6.1%	3.1 0.3%	3.5 0.4%	456.5 47.8%
249.8 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	32.3 0.6%	11.9 0.2%	44.2 0.8%	8.2 0.1%	1.9 0.0%	10.1 0.2%	3.3 0.1%	43.1 0.8%	7.1 0.1%	6.8 0.1%	364.5 6.6%

空宅地 (ha)	用途地域外					公共 用地 (ha)	交通 施設 用地 (ha)	その他1 (ha)	その他2 (ha)	都市的土 地利用 (ha)
	自動車 専用道路 (ha)	幹線 道路 (ha)	区画 道路 (ha)	道路 用地 (ha)	公共 空地 (ha)					
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
93.6 1.4%	58.4 0.9%	81.4 1.3%	252.6 3.9%	392.5 6.0%	35.7 0.5%	428.2 6.6%	35.0 0.5%	16.3 0.3%	6.7 0.1%	1,400.6 21.6%
49.9 5.2%	1.6 0.2%	41.4 4.3%	69.8 7.3%	112.7 11.8%	18.4 1.9%	131.1 13.7%	10.8 1.1%	5.1 0.5%	6.7 0.7%	660.1 69.1%
43.7 0.8%	56.8 1.0%	40.1 0.7%	182.8 3.3%	279.7 5.0%	17.3 0.3%	297.0 5.4%	24.2 0.4%	11.2 0.2%	0 0.0%	740.5 13.4%

資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査



資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査

(3) 市街地の開発整備の動向

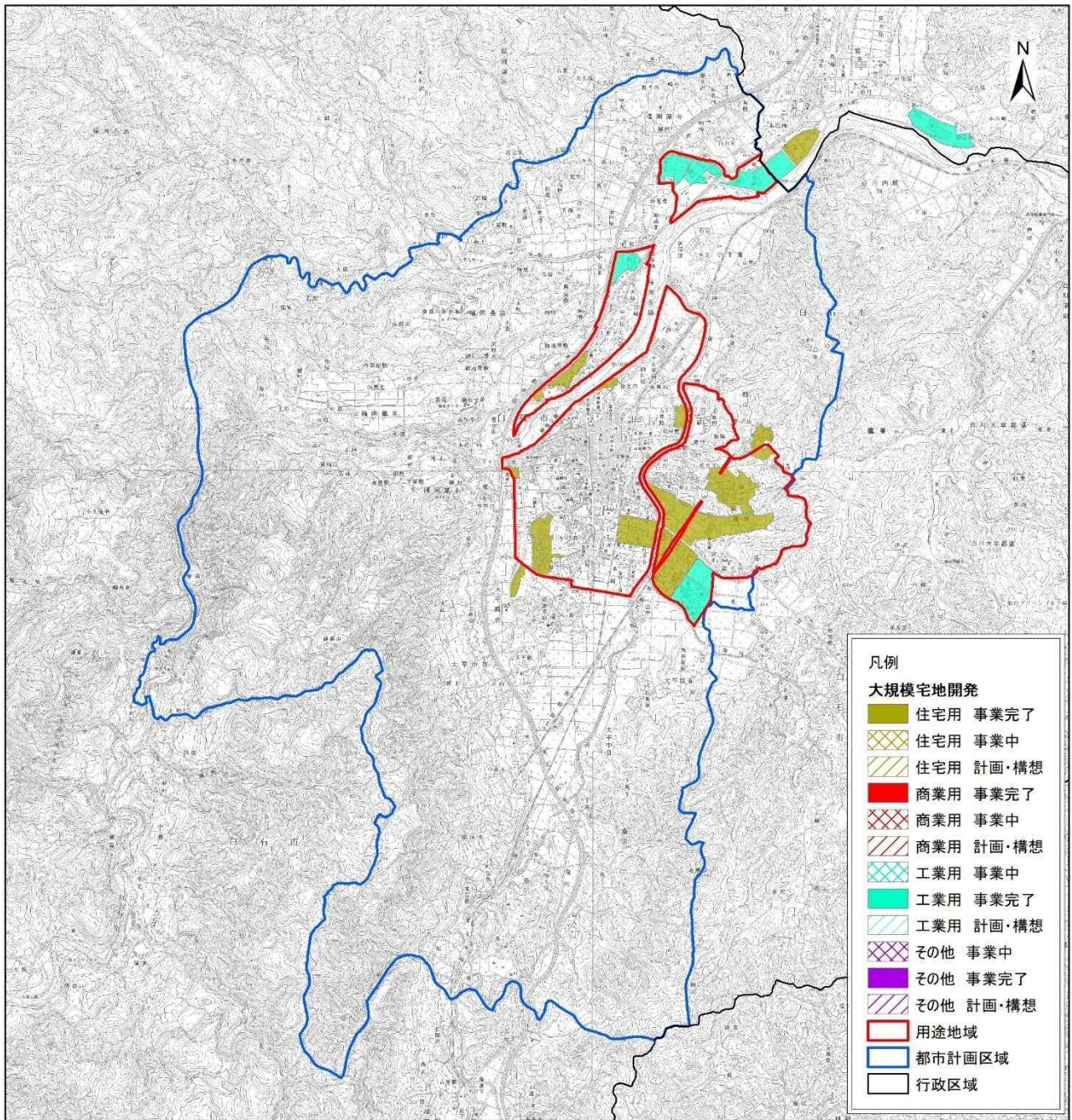
■用途地域内の宅地開発事業は概ね完了

○市街地の宅地開発の状況は、用途地域内を中心に土地区画整理事業、住宅、工業用途の開発行為が実施され、概ね事業が完了しています。

図表 大規模宅地開発の状況

地区名	事業種別	事業面積 (ha)	農地面積 (ha)	計画人口 (人)	計画世帯 (世帯)	事業期間 (年度～年度)	主な用途	備考
陣場が丘	土地区画整理事業	8.1	1.0	624	140	S48～S50	住宅	
権現	土地区画整理事業	2.8	0.1	224	50	S51～S52	住宅	
新白石駅前	土地区画整理事業	27.9	5.5	2,280	520	S52～S58	住宅	
幸	土地区画整理事業	1.7	0	136	30	S53～S55	住宅	
城南	土地区画整理事業	4.4	0.3	504	115	S54～S57	住宅	
上郡山	土地区画整理事業	7.9	1.1	640	145	S55～S60	住宅	
観音崎	土地区画整理事業	2.8	0.1	278	60	S56～S58	住宅	
新白石駅前西	土地区画整理事業	17.0	3.8	1,340	305	S56～H1	住宅	
堂形	土地区画整理事業	1.6	0.2	160	35	S58～S60	住宅	
第二城南	土地区画整理事業	12.7	1.3	860	195	S62～H4	住宅	
鷹巣	土地区画整理事業	41.8	0	3,500	801	H3～H18	住宅	
寿山	開発行為	22.7	—	—	—	S47～S50	住宅	
大鷹沢	開発行為	5.3	—	—	—	S58～	住宅	
大鷹沢	開発行為	17.3	—	従業員1,031人	2社	S50～S51	工業	出荷額1,018億円
大鷹沢	開発行為	7.1	—	従業員415人	1社	H10～H14	工業	出荷額239億円 第2期工事
福岡深谷	開発行為	9.2	—	従業員390人	4社	S61～S62	工業	出荷額102億円
福岡深谷	開発行為	11.0	—	従業員462人	2社	H21～H25	工業	出荷額216億円 第2期工事
福岡天王	開発行為	7.8	—	従業員460人	1社	H1	工業	出荷額120億円
仙南南西	開発行為	12.2	—	従業員1,570人	2社	H2～H3	工業	出荷額262億円

資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査



資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査

(4) 法規制

① 農業地域

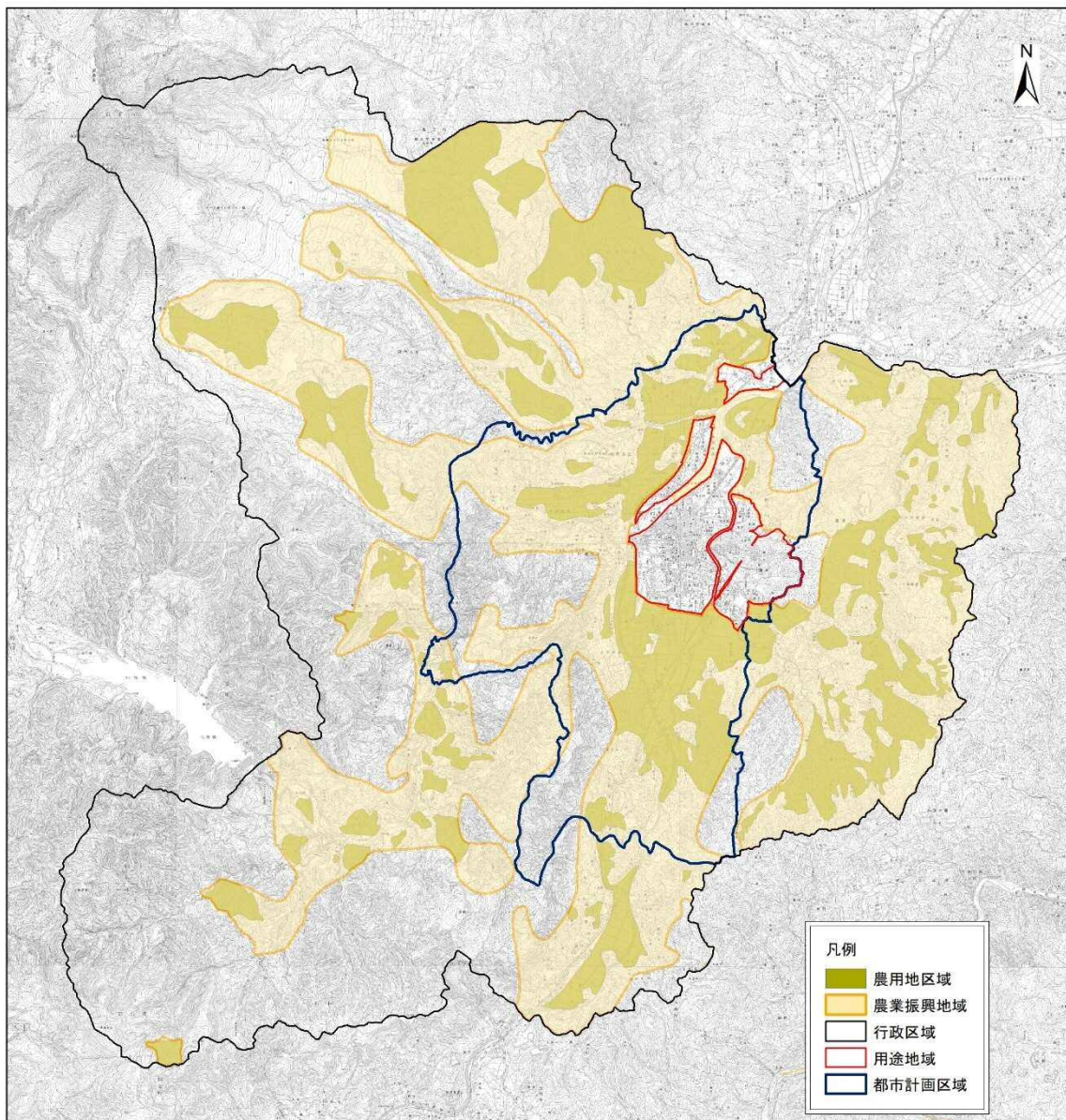
■用途地域を除く都市計画区域の大部分に農業振興地域が指定

○都市計画区域は、用途地域を除いた大部分に農業振興地域が指定されています。また、その約3割程度（5,169ha）が農用地区域に指定されています。

図表 農業地域

区域名	面積 (ha)
農業振興地域面積	15,591
農用地面積	5,169

資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査



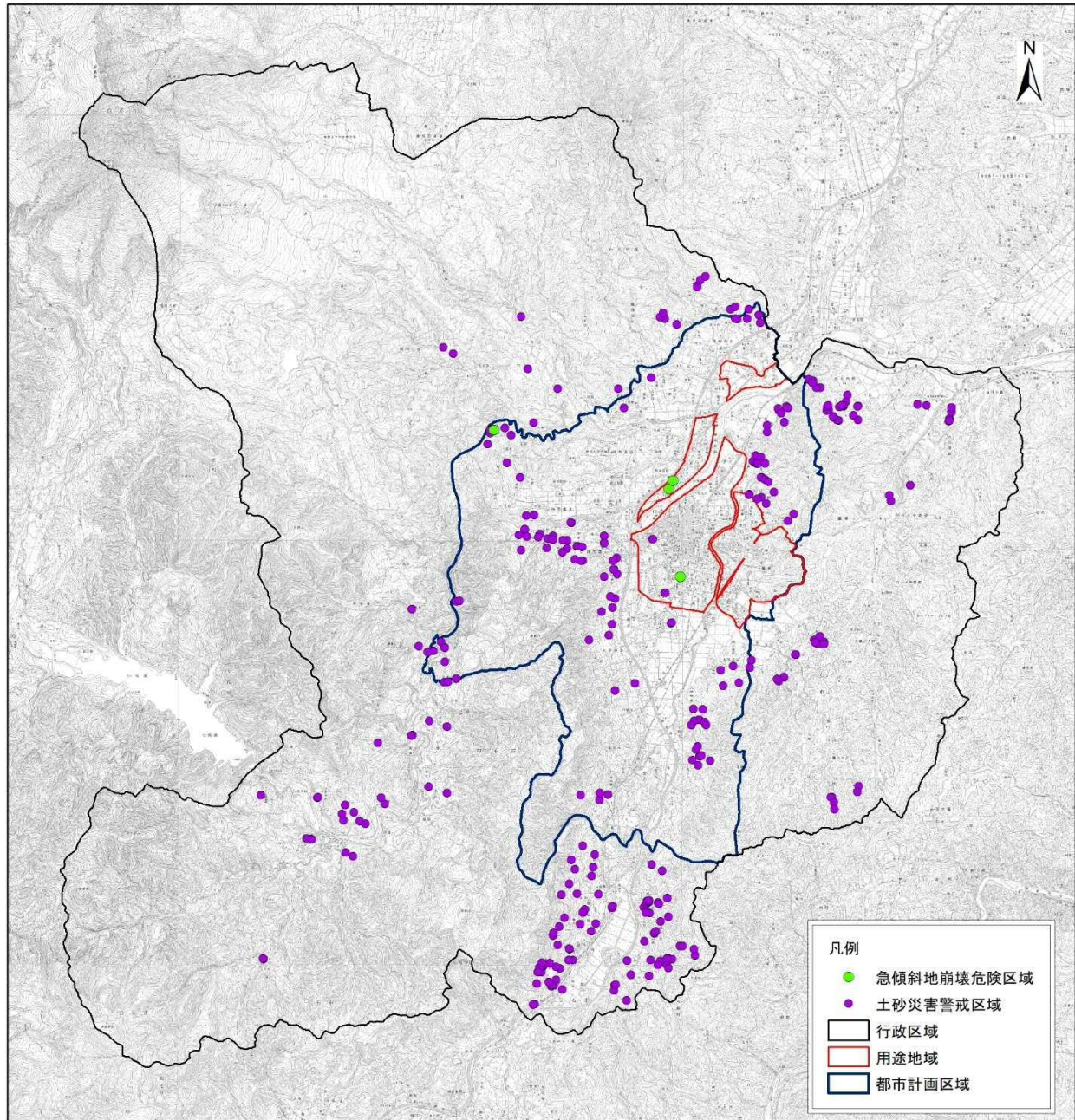
②災害警戒区域

■市内に急傾斜地崩壊、土砂災害警戒区域が広く指定

○都市計画区域を含め、行政区域に広く土砂災害警戒区域の指定箇所がみられます。

○用途地域内の一部に土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域の指定がみられます。

図表 災害危険区域



資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査

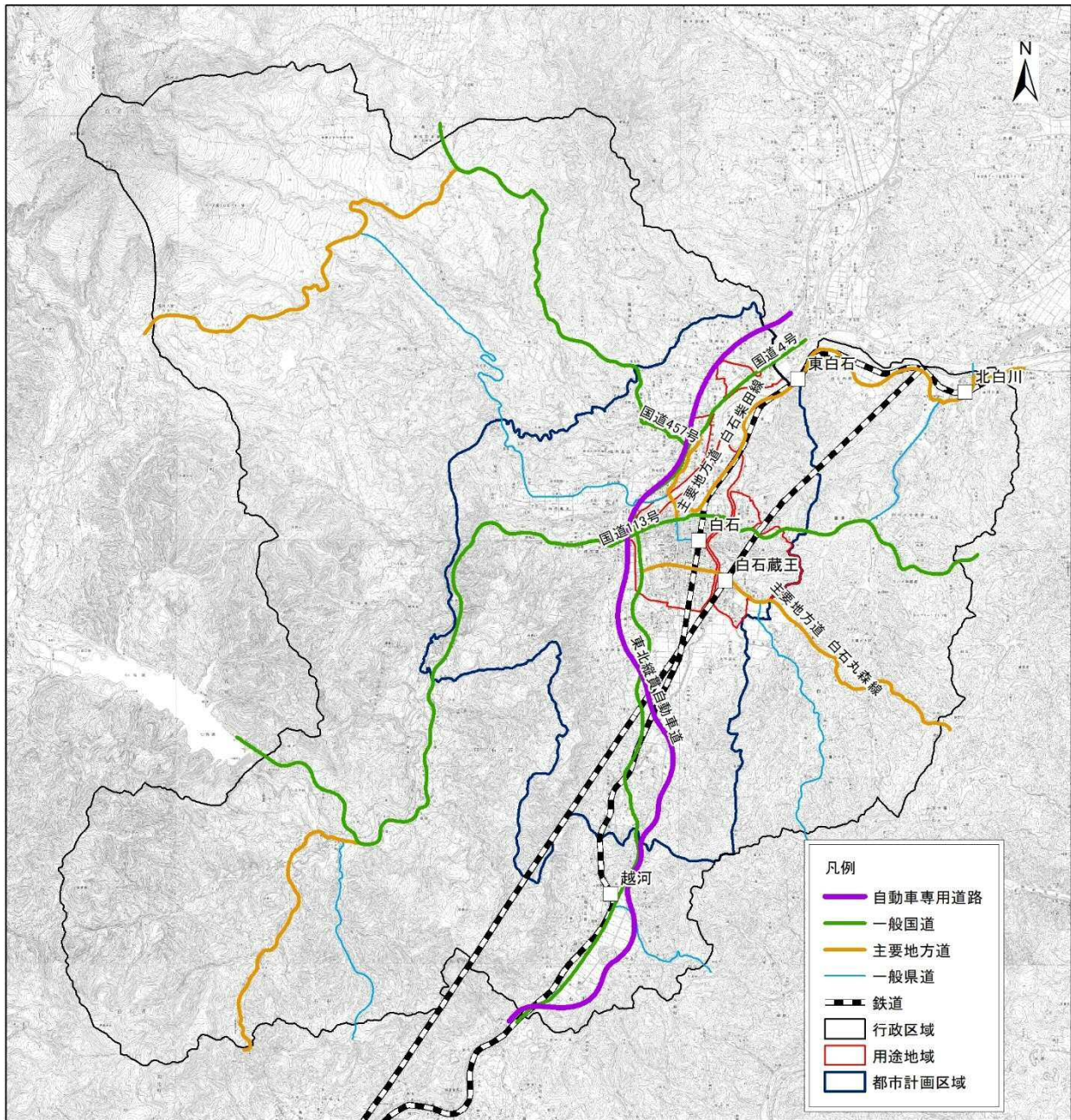
1-2-4 交通

(1) 道路網

- 広域的な幹線道路としての東北縦貫自動車道と国道4号
- 周辺都市と市内をネットワークする主要地方道や一般県道

- 本市の広域的な幹線道路として、東北縦貫自動車道、国道4号が縦断しています。
- そのほか、国道113号、国道457号が横断し、主要地方道や一般県道で、周辺都市や市内の各地域がつながっています。

図表 道路網図



資料：国土数値情報を基に作成

(2) 公共交通

① 鉄道

■ 鉄道駅は東北新幹線の白石蔵王駅と JR 東北本線の 4 駅

■ 一日平均乗車人員は、白石蔵王駅、白石駅ともに令和 2（2020）年に大きく減少

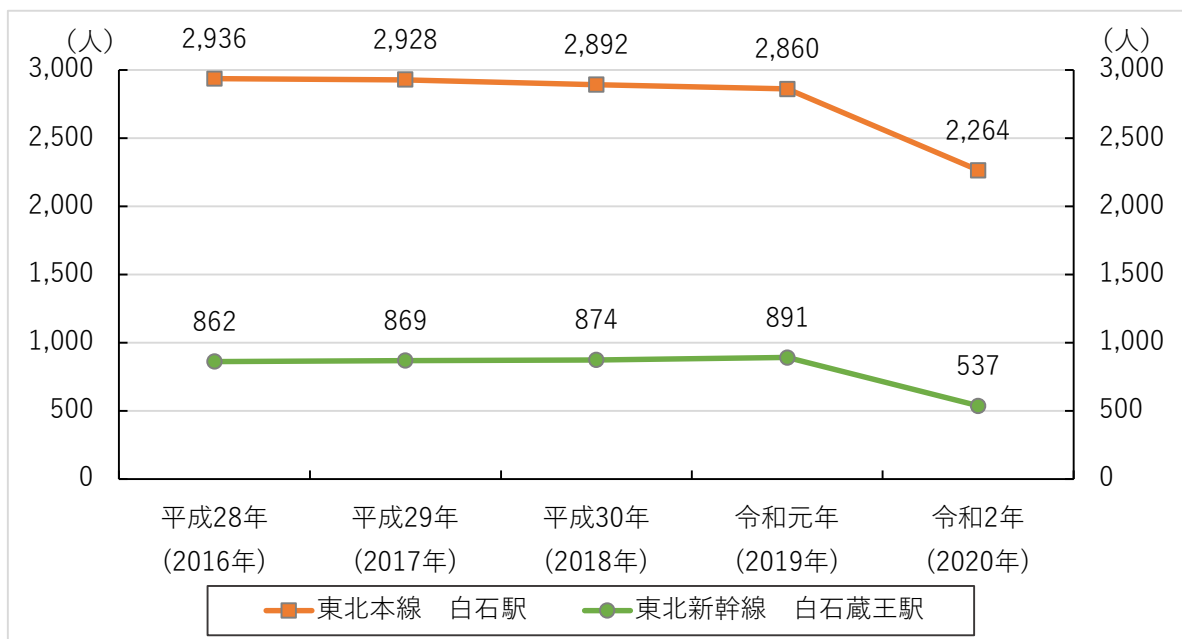
○ 鉄道駅は、JR 東北新幹線の白石蔵王駅、JR 東北本線の越河駅、白石駅、東白石駅、北白川駅の 4 駅が立地しています。

○ 一日平均乗車人員は、白石蔵王駅は 800 人台で横ばいであったが、令和 2（2020）年に大幅に減少して 500 人台となり、白石駅は、2,900 人前後で推移していたが、令和 2（2020）年に大幅に減少し 2,200 人台となっています。

図表 白石蔵王駅、白石駅の乗車人員（一日平均）

単位：人

	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
東北新幹線 白石蔵王駅	862	869	874	891	537
東北本線 白石駅	2,936	2,928	2,892	2,860	2,264



資料：東日本旅客鉄道株式会社

②バス

- バス交通は民間バス路線、市民バス、乗合タクシーが運行
- 利用者は、市民バス、乗合タクシーともに減少傾向

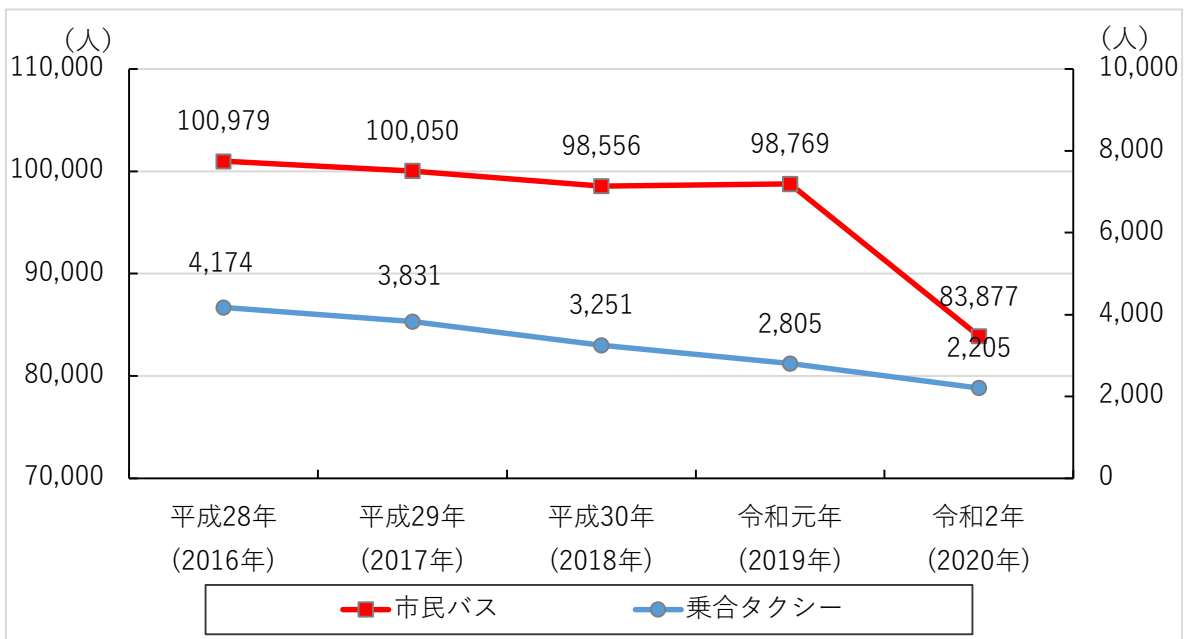
○バス交通は、民間の路線バスのほか、白石市民バス、乗合タクシーが運行されています。

○市民バスは、平成28(2016)年度から減少傾向にあり、令和2(2021)年度では85,000人を下回っています。乗合タクシーについても減少傾向にあり、令和2(2021)年度では2,500人を下回っています。

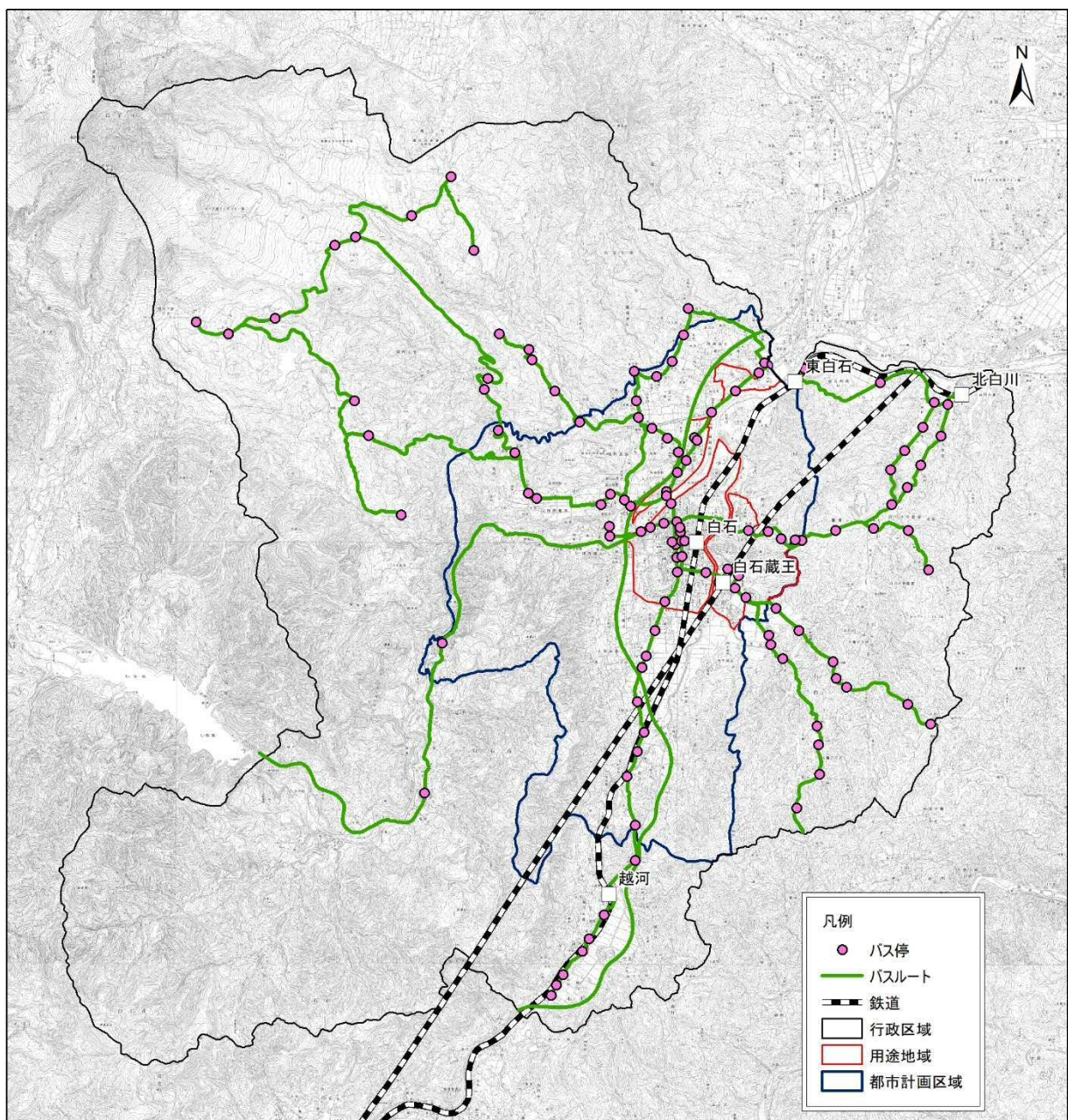
図表 白石市民バス利用者数・バス路線図、乗合タクシー利用者数

単位：人

	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
市民バス	100,979	100,050	98,556	98,769	83,877
乗合タクシー	4,174	3,831	3,251	2,805	2,205



資料：白石市市民経済部



資料：国土数値情報から作成

1-2-5 都市施設

(1) 都市計画道路

■都市計画道路は、13 路線が計画決定

■整備済みは 4 路線

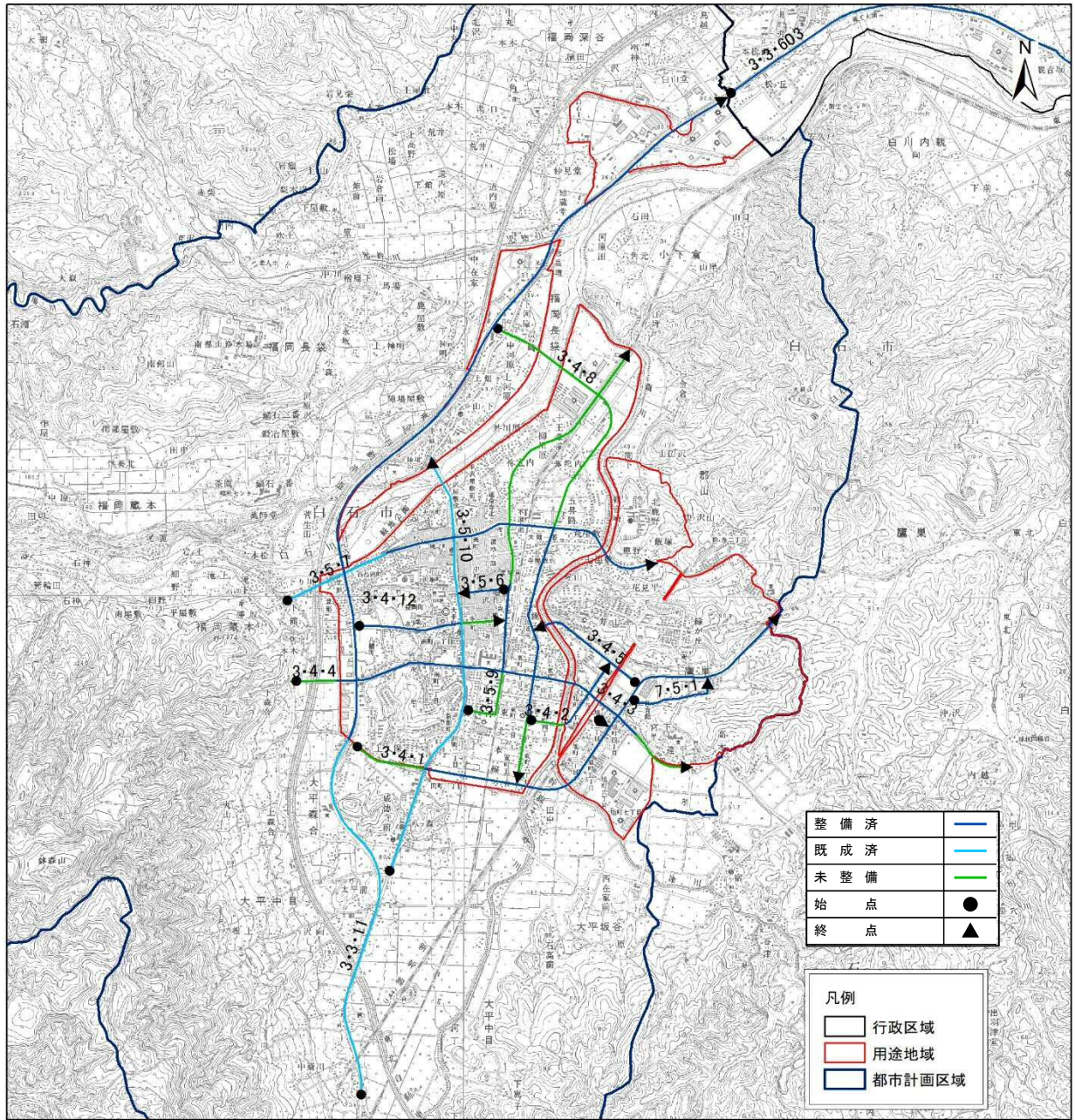
○都市計画道路は、13 路線が都市計画決定されており、計画路線の総延長は 35,340m となっています。

○このうち、整備済み路線は 4 路線となっています。

図表 都市計画道路の整備状況

路線番号	路線名	計画幅員 (m)	計画延長 (m)	整備済		既成済	
				延長 (m)	構成比 (%)	延長 (m)	構成比 (%)
3・3・11	国道幹線	22	9,360	6,260	66.9	3,100	33.1
3・4・1	沖の沢郡山線	29.8	4,040	3,410	84.4	0	0
3・4・2	白石沖和貢前線	20	880	570	64.8	0	0
3・4・3	桜田線	16	120	120	100.0	0	0
3・4・4	森合雁狩橋線	28.5	3,380	2,490	73.7	0	0
3・4・5	鳥喰北無双作線	16	1,000	1,000	100.0	0	0
3・4・8	中河原白石沖線	16	4,190	1,450	34.6	0	0
3・4・12	八幡町兎作線	16	1,200	820	68.3	0	0
3・5・6	白石駅東小路線	15	400	400	100.0	0	0
3・5・7	蔵本上郡山線	12	3,100	2,200	71.0	900	29.0
3・5・9	白石沖西堀線	12	3,530	730	20.7	0	0
3・5・10	威徳寺前大橋線	16	3,400	0	0	3,400	100.0
7・5・1	鳥喰六反町線	12	740	740	100.0	0	0

資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査



資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査

(2) 都市公園

- 都市計画公園は、6カ所が計画決定
- その他の都市公園は29カ所が開設済み

- 都市計画公園は、6カ所が都市計画決定されており、都市計画公園の総面積は31.25haとなっています。
- その他の都市公園は、29カ所が開設済みで、総面積は84,970㎡となっています。

表 都市計画公園の整備・分布状況

種別	番号	公園名	供用面積 (ha)	計画決定 年月日
街区公園	2・2・1	中央公園	0.5	S27.5.9
街区公園	2・2・2	寿山公園	0.16	S31.12.21
総合公園	5・4・1	益岡公園	8.1	H6.6.14
総合公園	5・5・2	スパッシュランドパーク	8.4	H4.2.4
風致公園	7・5・1	大萩山公園	4.5	S35.7.21
緑地	1	白石川緑地	9.6	S51.12.17

表 その他の都市公園の整備状況（単位：㎡）

公園名	供用面積	公園名	供用面積
陣場ヶ丘第1公園	1,769	延命寺公園	1,009
陣場ヶ丘第2公園	1,130	緑が丘第1公園	20,809
幸公園	518	寿山第2公園	675
観音崎公園	850	寿山第3公園	650
萩ヶ丘公園	644	久保公園	316
権現公園	846	永坂公園	424
城南一丁目公園	1,331	城南第1公園	818
松ヶ丘第1公園	1,030	城南第2公園	779
松ヶ丘第2公園	1,650	城南第3公園	2,139
堂形公園	491	岩崎第2公園	474
旭町第2公園	3,902	鷹巣第3公園	1,732
東町第2公園	2,600	鷹巣第6公園	2,678
岩崎公園	7,753	つくし公園	3,383
白石沖公園	463	白石川サッカー公園	24,039
パルタウン公園	675		

資料：令和2年度 白石市の都市計画

(3) 公共下水道

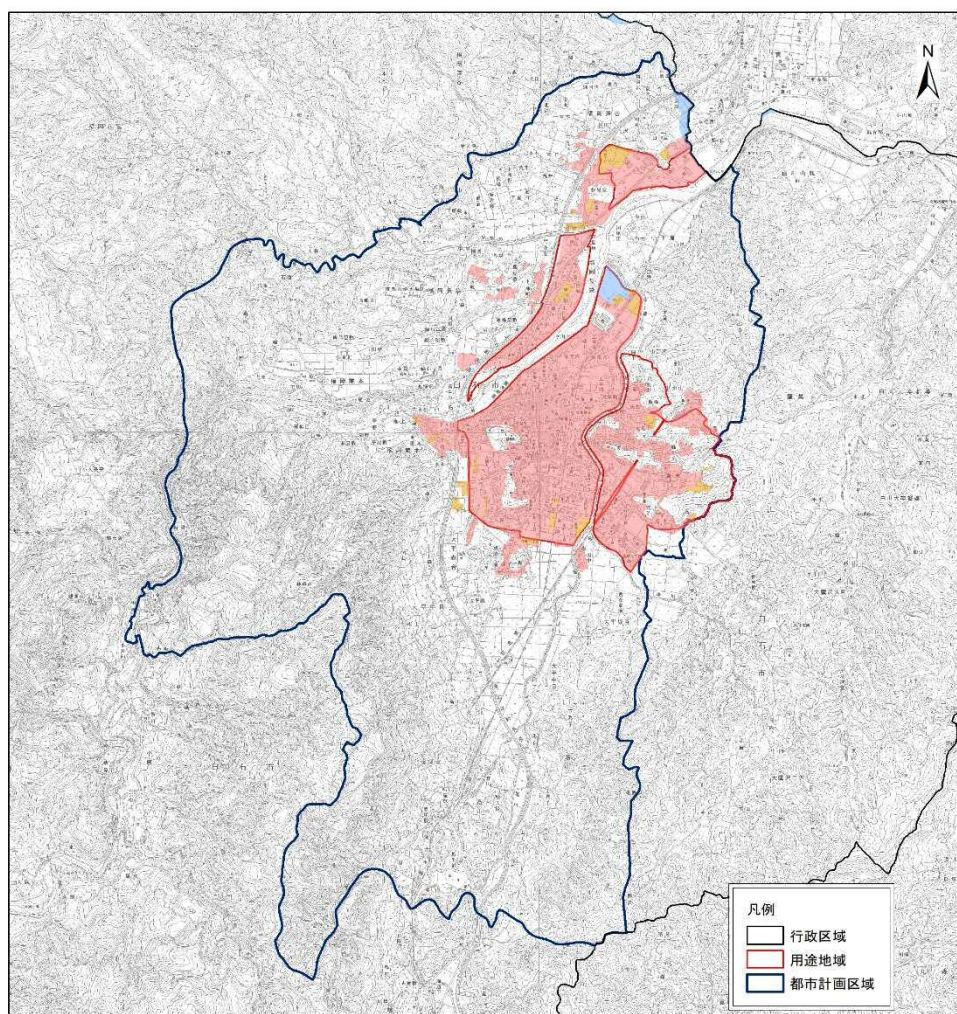
■白石市公共下水道が計画決定

○用途地域が指定されている地区を中心に公共下水道が計画決定され、整備事業が進められています。

図表 公共下水道の整備状況・整備事業（污水）

処理区名	種別		方式 分流・合流	面積		
	単独・流域 の別	公共・特環 の別		都市計画 決定区域 (ha)	事業認可 区域	
			区域 (ha)		供用区域 (ha)	
白石処理区(污水)	流域関連	公共	分流	1,006	969.0	894
白石処理区(雨水)	流域関連	公共	分流	1,256	528.0	73

資料：平成 29 年度 県南部地区都市計画基礎調査



1-2-6 周辺都市とのつながり

(1) 通勤・通学

- 通勤、通学ともに流入超過
- 仙台市、蔵王町、大河原町とのつながりが強い
- 通勤流出は増加、通学流出は減少傾向

○平成 27 (2015) 年の通勤による流出人口は 5,811 人、流入人口は 5,998 人であり、流入超過となっています。流出先は蔵王町が最も多く 900 人、次いで大河原町となっています。流入元は大河原町が最も多く 809 人、次いで蔵王町となっています。また、平成 17 (2005) 年以降の推移をみると、流出人口、流入人口ともに増加傾向となっています。

表 流入流出の状況 (通勤)

	常住地による 就業者数 (人)	流出先		従業地による 就業者数 (人)	流入元		通/常就業者 比率 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
平成17年 (2005年)	19,144	5,657	29.5%	18,502	5,015	27.1%	96.6%
平成22年 (2010年)	16,684	5,624	33.7%	15,981	5,927	37.1%	95.8%
平成27年 (2015年)	16,667	5,811	34.9%	15,864	5,998	37.8%	95.2%

	通勤流出先						通勤流入元					
	流出率第1位			流出率第2位			流入率第1位			流入率第2位		
	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
平成17年 (2005年)	蔵王町	808	4.2%	仙台市 青葉区	756	3.9%	蔵王町	814	4.4%	大河原町	764	4.1%
平成22年 (2010年)	蔵王町	837	5.0%	仙台市 青葉区	777	4.7%	大河原町	792	5.0%	蔵王町	768	4.8%
平成27年 (2015年)	蔵王町	900	5.4%	大河原町	676	4.1%	大河原町	809	5.1%	蔵王町	787	5.0%

資料：国勢調査

○平成 27（2015）年の通学による流出人口は 797 人、流入人口は 1,027 人であり、流入超過となっています。流出先は仙台市青葉区が最も多く 240 人、次いで大河原町となっています。流入元は柴田町が最も多く 201 人、次いで大河原町となっています。また、平成 17（2005）年以降の推移をみると、流出人口、流入人口はともに減少傾向となっています。

表 流入流出の状況（通学）

	当該都市に常在する通学者数（人）	流出先		当該都市に通学する通学者数（人）	流入元		通/常通学者比率（%）
		通学者数（人）	流出率（%）		通学者数（人）	流入率（%）	
平成17年（2005年）	2,127	1,115	52.4%	2,241	1,229	54.8%	105.4%
平成22年（2010年）	1,783	912	51.1%	1,960	1,077	54.9%	109.9%
平成27年（2015年）	1,491	797	53.5%	1,724	1,027	59.6%	115.6%

	通学流出先						通学流入元					
	流出率第1位			流出率第2位			流入率第1位			流入率第2位		
	市町村名	流出者数（人）	流出率（%）	市町村名	流出者数（人）	流出率（%）	市町村名	流入者数（人）	流入率（%）	市町村名	流入者数（人）	流入率（%）
平成17年（2005年）	仙台市青葉区	340	16.0%	蔵王町	158	7.4%	柴田町	294	13.1%	大河原町	176	7.9%
平成22年（2010年）	仙台市青葉区	308	17.3%	大河原町	122	6.8%	柴田町	271	13.8%	大河原町	185	9.4%
平成27年（2015年）	仙台市青葉区	240	16.1%	大河原町	124	8.3%	柴田町	201	11.7%	大河原町	132	7.7%

資料：国勢調査

1-3 地理的自然的条件の整理

1-3-1 位置・地勢

本市は、東京から東北新幹線で約2時間の宮城蔵王の玄関口です。

市内には多数の温泉があり、名所・旧跡も多く点在しています。

街中には、掘割・水路があり、商家の蔵が点在するなど城下町らしい趣がみられ、平成7(1995)年には白石城が城下町のシンボルとして復元されています。

1-4 その他条件の整理

1-4-1 市の沿革

明治22(1889)年の4月1日に町村制施行に伴い、白石町、大平村、斎川村、越河村、大鷹沢村、白川村、福岡村、小原村が誕生し、昭和29(1954)年4月1日に市制施行に伴い、白石市が誕生しました。その後、昭和32(1957)年3月31日に小原村を編入し現在の白石市に至ります。

1-4-2 歴史的文化財の分布状況

指定文化財は、市内に計29件分布しており、国指定有形文化財、県指定有形文化財、市指定有形文化財のほか、県指定記念物史跡、市指定記念物史跡、国天然記念物、県指定天然記念物、市指定天然記念物が指定されています。

表 歴史的文化財の分布

種別	指定区分	名称	指定年月日	
建造物	県指定	片倉家中武家屋敷旧小関家	H5.12.24	
		旧上戸沢検断屋敷木村家住宅	H16.3.30	
	市指定	旧刈田病院本館	H20.7.7	
		白石城（三階櫓、大手一ノ門、大手二ノ門、石垣、土塀）	H23.7.6	
記念物 史跡	県指定	鷹巣古墳群	S46.11.9	
	市指定	堂田遺跡	S48.7.25	
		郡山横穴古墳群	S48.7.25	
		世良修蔵の墓	S48.7.25	
		片倉家御廟所	S48.7.25	
		白石城跡	S57.7.2	
記念物 天然記念物	国指定	球状閃緑岩	T12.3.7	
		小原の材木岩	S9.5.1	
		小原のヒダリマキガヤ	S17.10.14	
		ヨコグラノキ北限地帯	S17.10.14	
		小原のコツブガヤ	S18.2.19	
	県指定	嘉右衛門山の逆さケヤキ	H17.5.10	
	市指定	栃原の一本杉	H14.3.29	
		傑山寺の一本杉	H14.3.29	
		湯口寺のイチョウ	H14.3.29	
		堂形のケヤキ	H14.3.29	
		鎌先のトチノキ	H14.3.29	
		常林寺のエドヒガン	H20.7.7	
	美術工芸品	市指定	白石焼壺	S57.7.2
			白石焼山神講徳利一対	H12.3.15
遠藤家・中島家資料			H23.3.11	
彫刻	市指定	阿弥陀如来像	H4.4.1	
工芸技術	県指定	日本刀鍛錬技術	H16.3.30	
民族文化財	市指定	小原の百矢納め	H13.4.12	
		榊流大町神楽	H18.5.11	

資料：白石市教育委員会生涯学習課

1-5 関係各課ヒアリング

1-5-1 ヒアリングの目的

平成 22 (2010) 年度に本プランを策定してから約 8 年が経過し、人口減少や少子高齢化の急速な進展、地球温暖化をはじめとする環境問題の深刻化、市民の価値観・ライフスタイルの多様化、東日本大震災による防災・減災意識の高まりなど、本市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。

さらには、市の最上位計画となる「第五次白石市総合計画」の改定が予定されていることから、上位計画との整合を図るため、見直しを行う必要性が生じました。

本ヒアリングは、現時点におけるまちづくりに関する取り組み状況を把握し、今後 10 年間のまちづくりの方針を定めるため、本市で推進しているまちづくりに関する施策や考え方を把握するために、令和元年度に庁内関係各課に対してヒアリングを行いました。

1-5-2 ヒアリングの内容

平成 22 (2010) 年度に策定した本プランに掲載されている「第 4 章 分野別の整備保全の方針」について、項目ごとに整理し、この方針の内容について、達成状況や事業の状況などを確認し、本プランにおける位置づけを確認しました。

また、まちづくりに関する新たな事業を実施している場合、どのような事業を実施しているのか、事業の目的や状況などを確認しました。

1-5-3 ヒアリング結果

- ・「目標を達成したので都市マスへの位置づけは必要ない」「施策推進の可能性が少なく、内容変更を検討したい」の回答は 0 件。
- ・「これまでも取り組んでおり、継続して取り組んでいきたい」の回答が大部分を占めている。
- ・修正の方向性として、「(仮称) 白石中央 SIC 整備」「交通空白地帯の解消」「自然共生社会の実現」「マナー・モラルの改善と向上」「快適な生活環境の構築」「ごみ排出量の抑制」「温室効果ガス排出量の削減」「市民・事業者の活動機会の創出」「市役所及び防災センターを本市の防災拠点として位置づけ」「避難行動要支援者名簿と防災マップの活用」などのキーワードがあげられている。
- ・追加すべき方針・施策として、「(仮称) 白石中央 SIC の整備」「賑わい交流拠点しろいし SunPark による賑わい創出と雇用創出、子育て支援強化」などのキーワードがあげられている。

1-6 住民意向

1-6-1 調査実施概要

本市のまちづくりに関する現況、問題点と将来像の意識を把握するとともに、住民意見や要望などを計画策定に反映させることを目的として、一般市民、中学生を対象にアンケート調査を実施しました。

1-6-2 調査結果

(1) 一般市民調査

調査対象者	18歳以上の市民（無作為抽出）
調査時期	令和2（2020）年1月
配布数	2,000票
配布方法	郵送による配布・回収
回収票	466票
有効回収率	23.3%

(2) 中学生調査

調査対象者	市内中学校の生徒
調査時期	令和2（2020）年1月
配布数	246票
配布方法	学校を通じて配布・回収
回収票	219票
有効回収率	89.0%

1-6-3 調査の分析

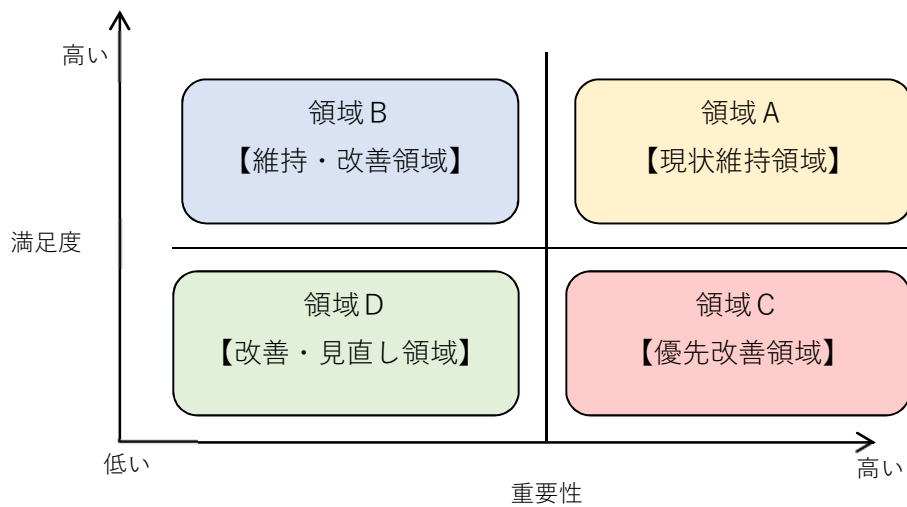
市全体、各地区、中学生の分野別評価（満足度、重要度）の結果を用いて、各分野について改善の必要度合いを分析します。

【満足度】【重要度】の算出方法

例として満足度（重要度）の算出方法を以下に示す。この算出方法では全員が「満足」（重要）を選択した場合に5となり、全員が「わからない」を選択した場合には1の値を示します。

＜算出方法＞

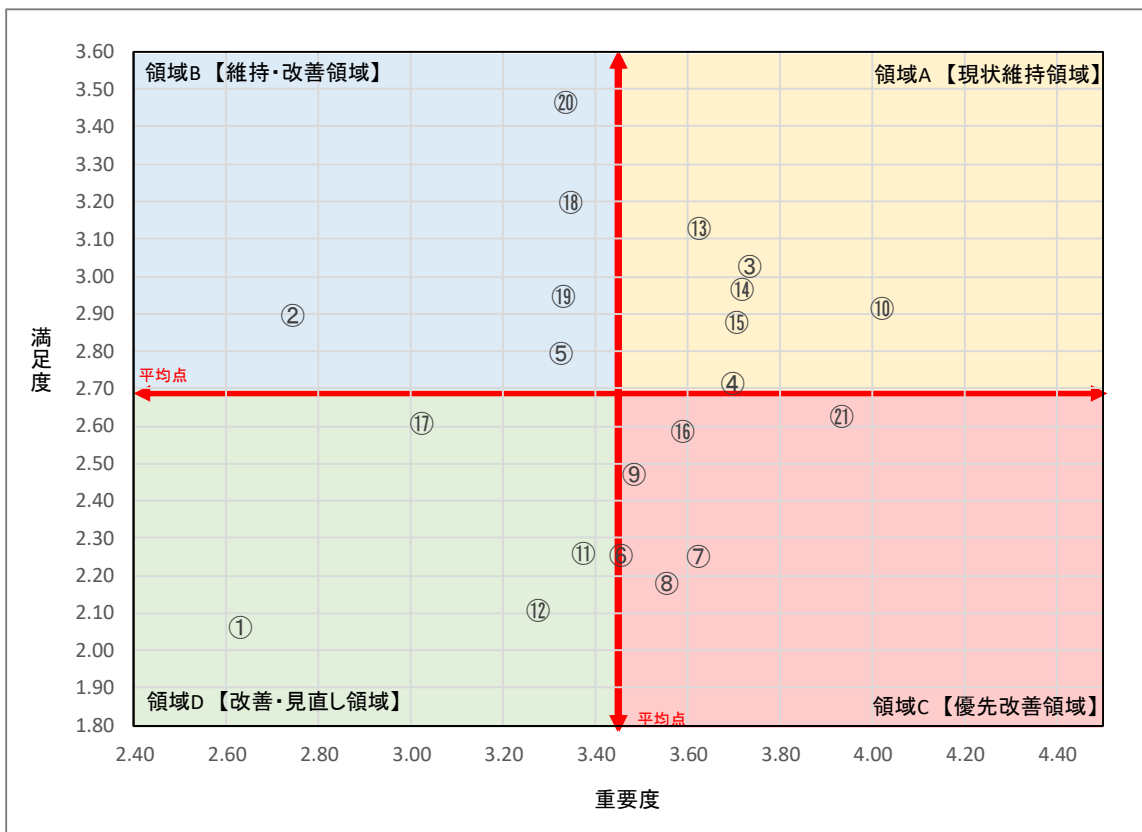
$$\frac{\text{「満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「やや不満」} \times 3 + \text{「不満」} \times 2 + \text{「わからない」} \times 1}{\text{回答者数(無回答を除く)}}$$



	領域 A 【現状維持領域】	領域 B 【維持・改善領域】	領域 C 【優先改善領域】	領域 D 【改善・見直し領域】
満足度	高	高	低	低
重要度	高	低	高	低
概要	重要度も満足度も高く、現在の満足度の水準を維持する必要がある領域	重要度は低いものの満足度が高く、現在の満足度の水準を維持又は、施策の重要性認識を含め改善する必要がある領域	重要度が高いが、満足度が低く、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要がある領域	重要度と満足度が相対的に低く、市民ニーズを再確認するとともに、満足度を高める改善が必要又は、施策のあり方を見直す必要がある領域

(1) 市全体【一般市民】

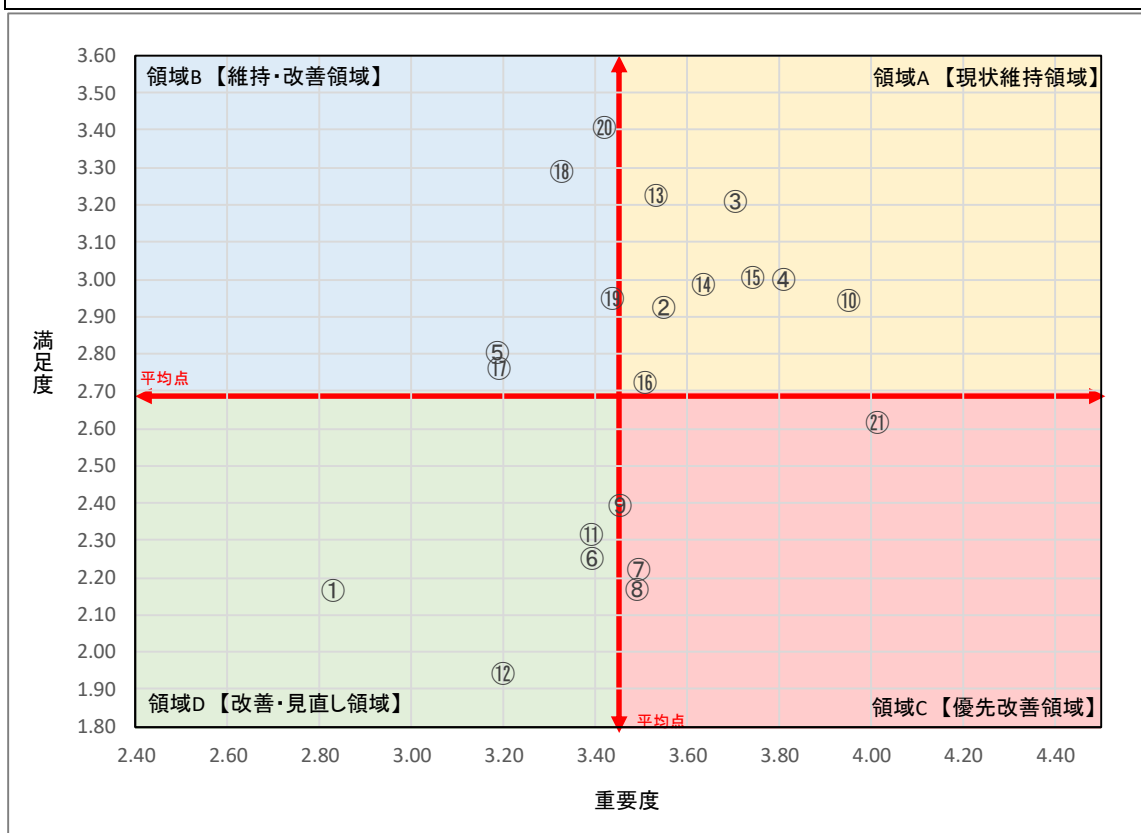
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ」「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑩バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」「⑪地震や水害などの自然災害に対する安全性」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	②住宅地のまちなみや環境の良さ ⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑧河川や水路などの水のきれいさ ⑨市街地のまちなみなどの身近な景観 ⑩山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ	【現状維持領域】 領域A	③通勤・通学の便利さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道
	【改善・見直し領域】 領域D		①新築向けの住宅地の充実 ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑬公園の利用しやすさ

(2) 白石地区

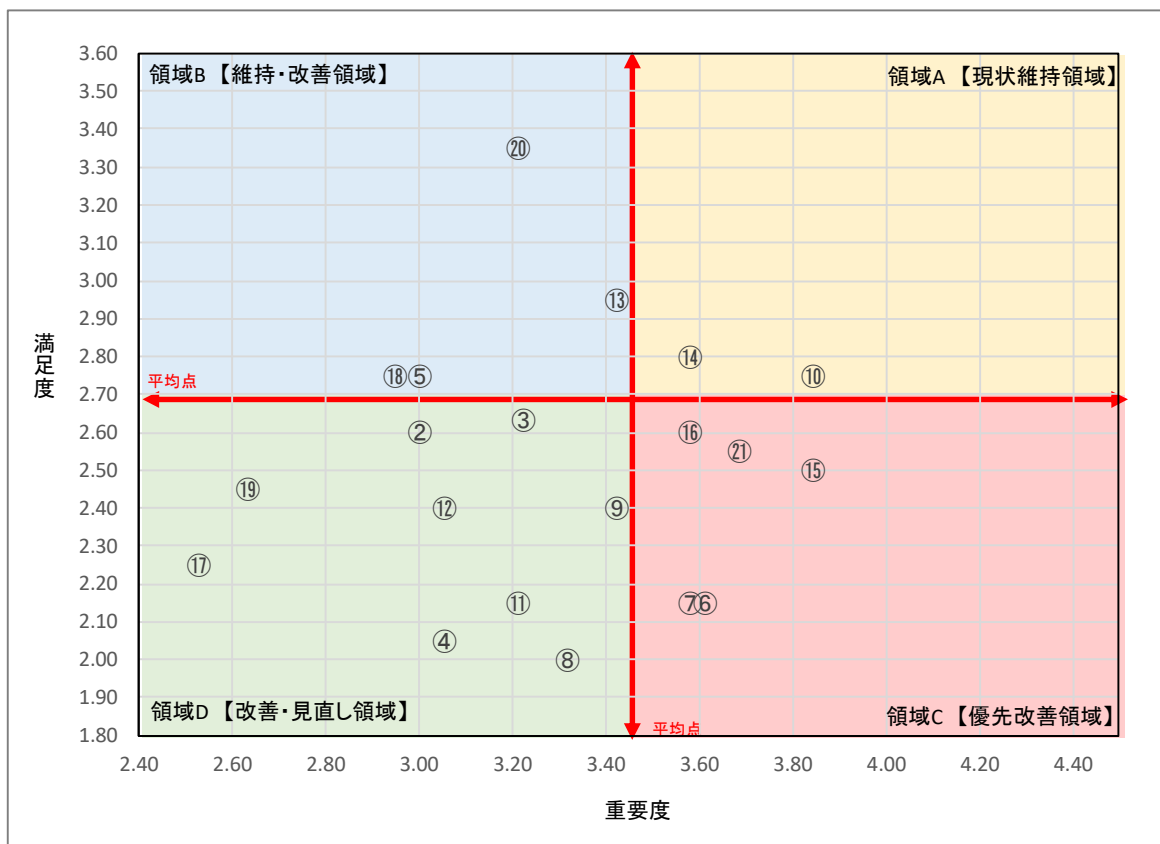
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑳地震や水害などの自然災害に対する安全」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑦公園の利用しやすさ ⑧河川や水路などの水のきれいさ ⑨市街地のまちなみなどの身近な景観 ⑩山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ	【現状維持領域】 領域A	①住宅地のまちなみや環境の良さ ②通勤・通学の便利さ ③日常、歩いて買い物ができる便利さ ④病院など医療施設の利用しやすさ ⑤移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑥身近な道路の安全性 ⑦安心して歩ける歩道 ⑧バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ
	【改善・見直し領域】 領域D		①新築向けの住宅地の充実 ②白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ③保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ④高齢者などの福祉施設の利用しやすさ

(3) 越河地区

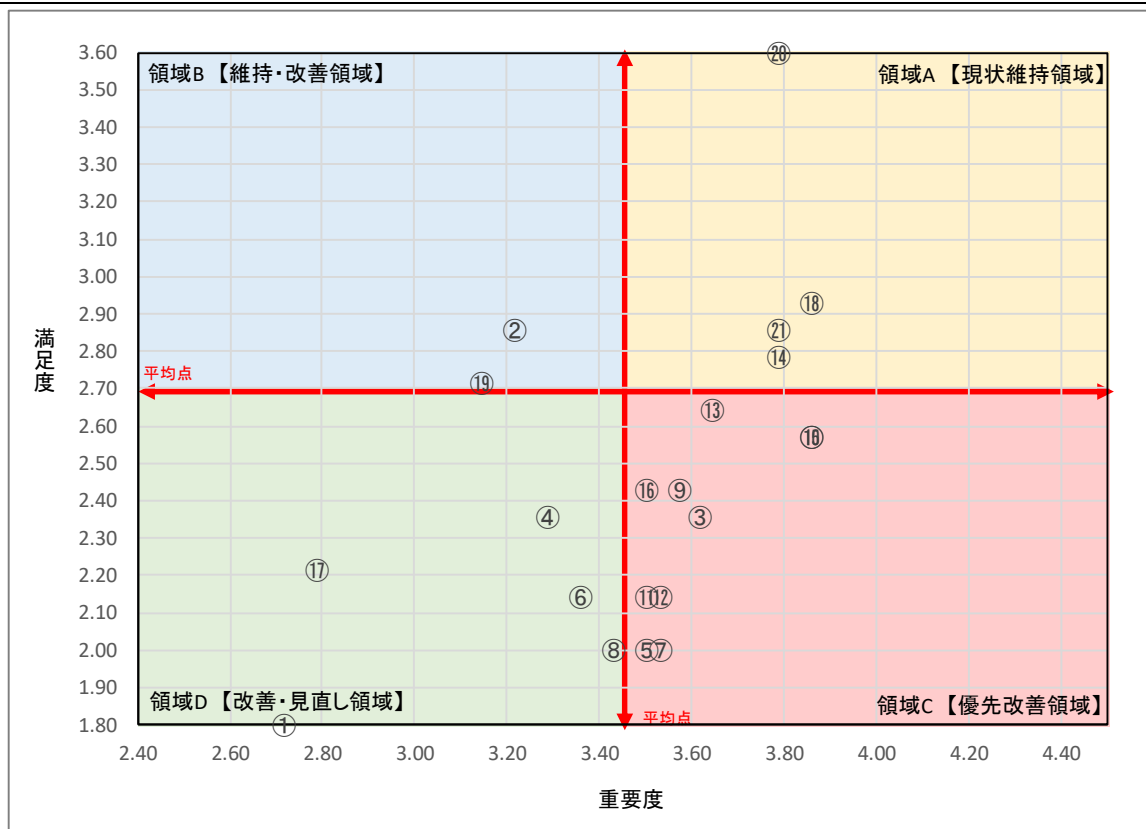
■満足度が低く、重要度が高い領域 C には、「⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ」「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑮安心して歩ける歩道」「⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」「⑳地震や水害などの自然災害に対する安全性」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域 B	<ul style="list-style-type: none"> ⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑱河川や水路などの水のきれいさ ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ 	【現状維持領域】 領域 A	<ul style="list-style-type: none"> ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑭身近な道路の安全性
【改善・見直し領域】 領域 D	<ul style="list-style-type: none"> ①新築向けの住宅地の充実 ②住宅地のまちなみや環境の良さ ③通勤・通学の便利さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑨観光施設の利用しやすさ ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑰公園の利用しやすさ ⑲市街地のまちなみなどの身近な景観 	【優先改善領域】 領域 C	<ul style="list-style-type: none"> ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑮安心して歩ける歩道 ⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ ⑳地震や水害などの自然災害に対する安全性

(4) 齋川地区

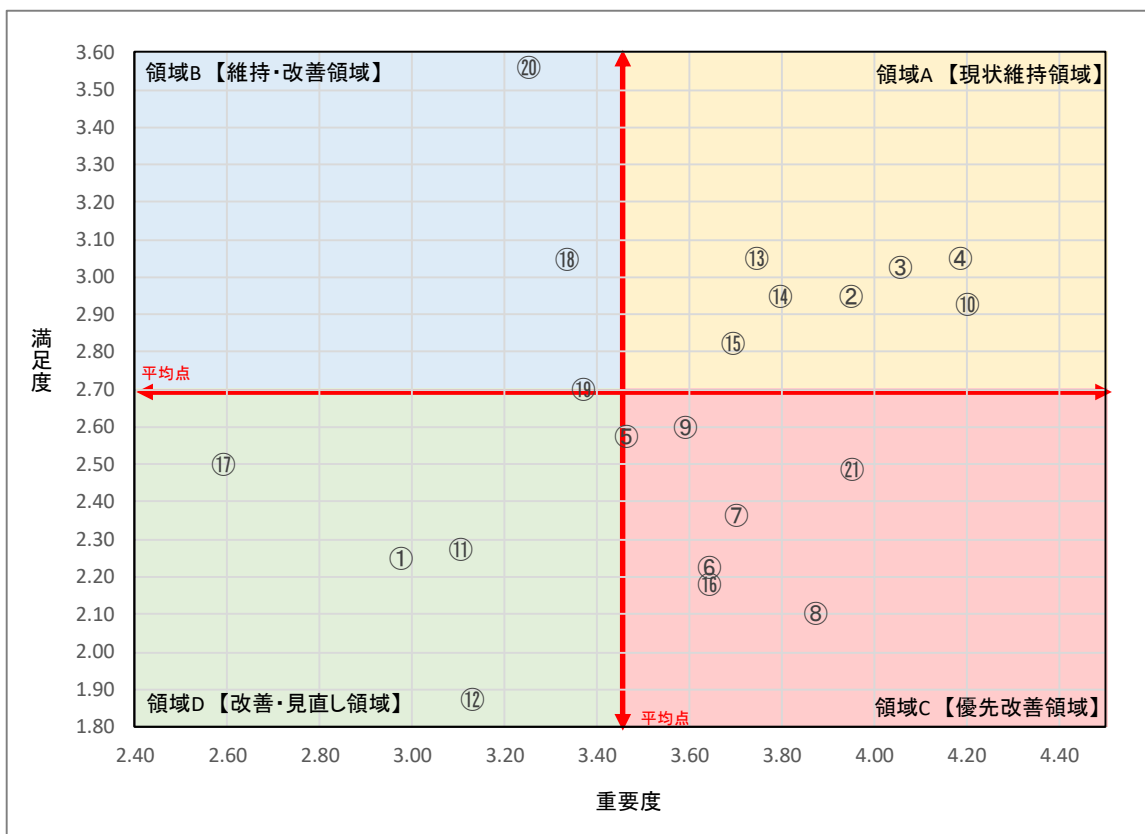
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「③通勤・通学の便利さ」「⑤まちなかの駐車場の便利さ」「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑩病院など医療施設の利用しやすさ」「⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ」「⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ」「⑬移動がスムーズな幹線道路の充実」「⑮安心して歩ける歩道」「⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	②住宅地のまちなみや環境の良さ ⑯市街地のまちなみなどの身近な景観	【現状維持領域】 領域A	⑭身近な道路の安全性 ⑮河川や水路などの水のきれいさ ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ ㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性
	【改善・見直し領域】 領域D		①新築向けの住宅地の充実 ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑰公園の利用しやすさ

(5) 大平地区

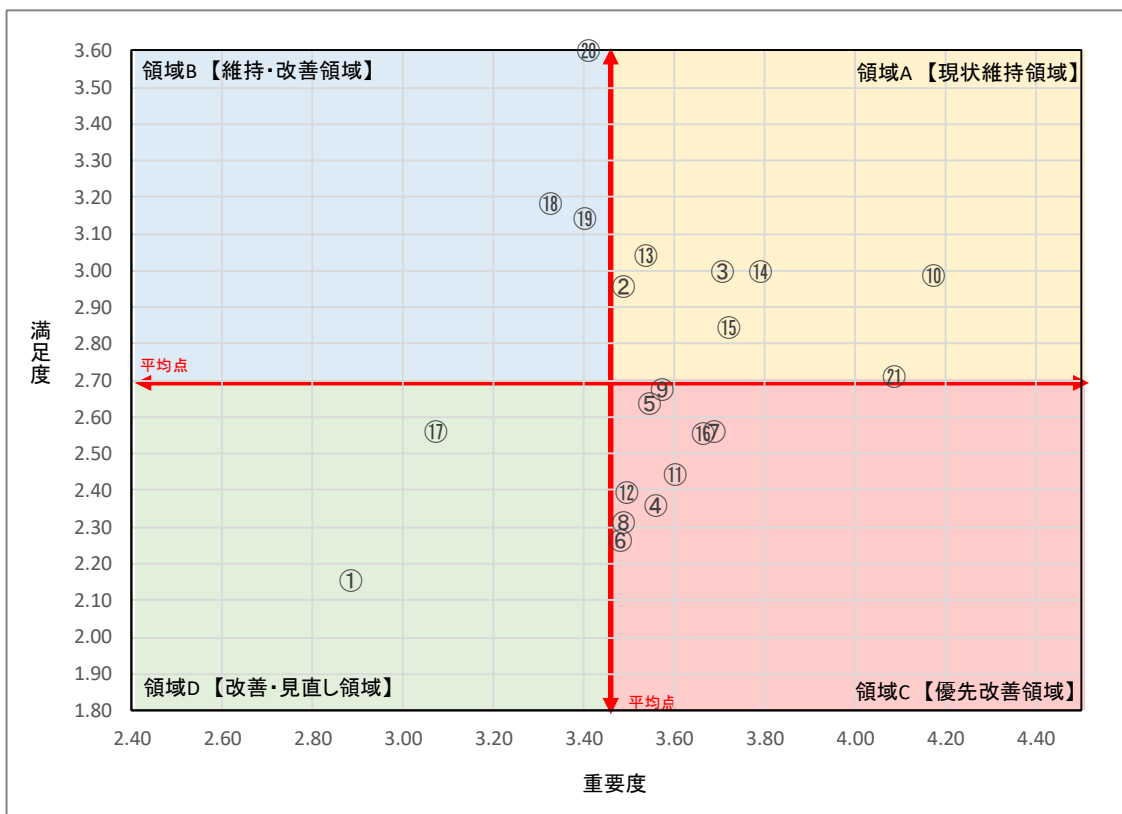
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「⑤まちなかの駐車場の便利さ」「⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ」「⑦働く場所としての向上・事務所の充実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑩バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」「⑫地震や水害などの自然災害に対する安全性」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑱河川や水路などの水のきれいさ ⑲市街地のまちなみなどの身近な景観 ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ	【現状維持領域】 領域A	②住宅地のまちなみや環境の良さ ③通勤・通学の便利さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道
【改善・見直し領域】 領域D	①新築向けの住宅地の充実 ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑰公園の利用しやすさ	【優先改善領域】 領域C	⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑨観光施設の利用しやすさ ⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ ㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性

(6) 大鷹沢地区

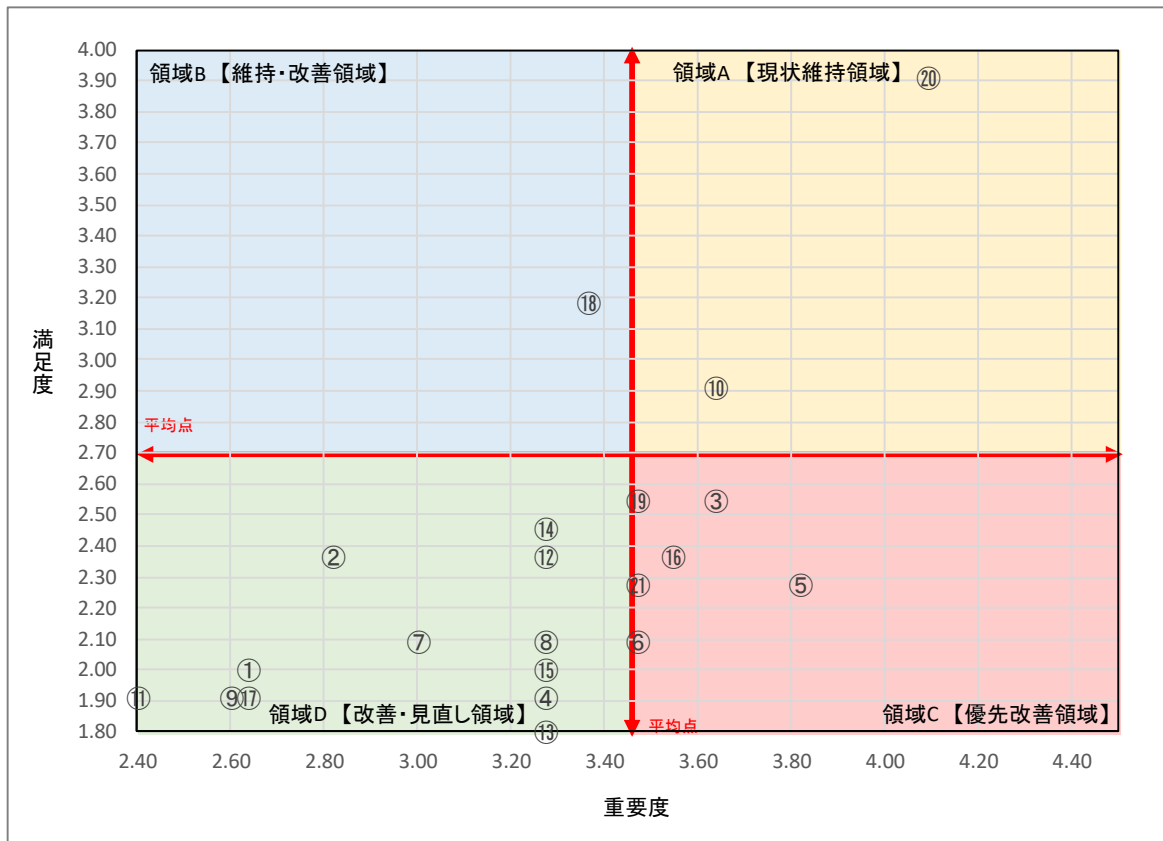
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「④日常、歩いて買い物ができる便利さ」「⑤まちなかの駐車場の便利さ」「⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ」「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ」「⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ」「⑬バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑱河川や水路などの水のきれいさ ⑲市街地のまちなみなどの身近な景観 ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ	【現状維持領域】 領域A	②住宅地のまちなみや環境の良さ ③通勤・通学の便利さ ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道 ⑳地震や水害などの自然災害に対する安全性
【改善・見直し領域】 領域D	①新築向けの住宅地の充実 ⑰公園の利用しやすさ	【優先改善領域】 領域C	④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑨観光施設の利用しやすさ ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑬バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ

(7) 白川地区

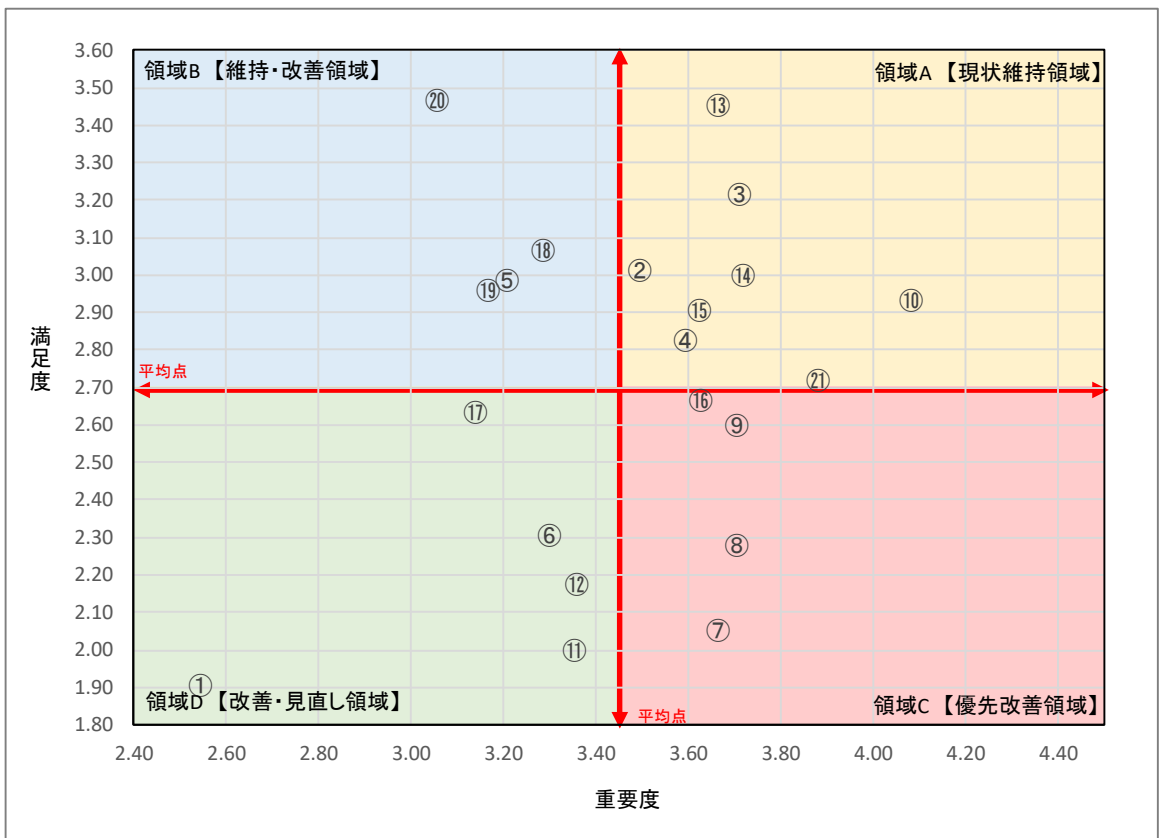
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「③通勤・通学の便利さ」「⑤まちなかの駐車場の便利さ」「⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ」「⑬バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」「⑱市街地のまちなみなどの身近な景観」「㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑱河川や水路などの水のきれいさ	【現状維持領域】 領域A	⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ
【改善・見直し領域】 領域D	①新築向けの住宅地の充実 ②住宅地のまちなみや環境の良さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑨観光施設の利用しやすさ ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道 ⑰公園の利用しやすさ	【優先改善領域】 領域C	③通勤・通学の便利さ ⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑬バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ ⑱市街地のまちなみなどの身近な景観 ㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性

(8) 福岡地区

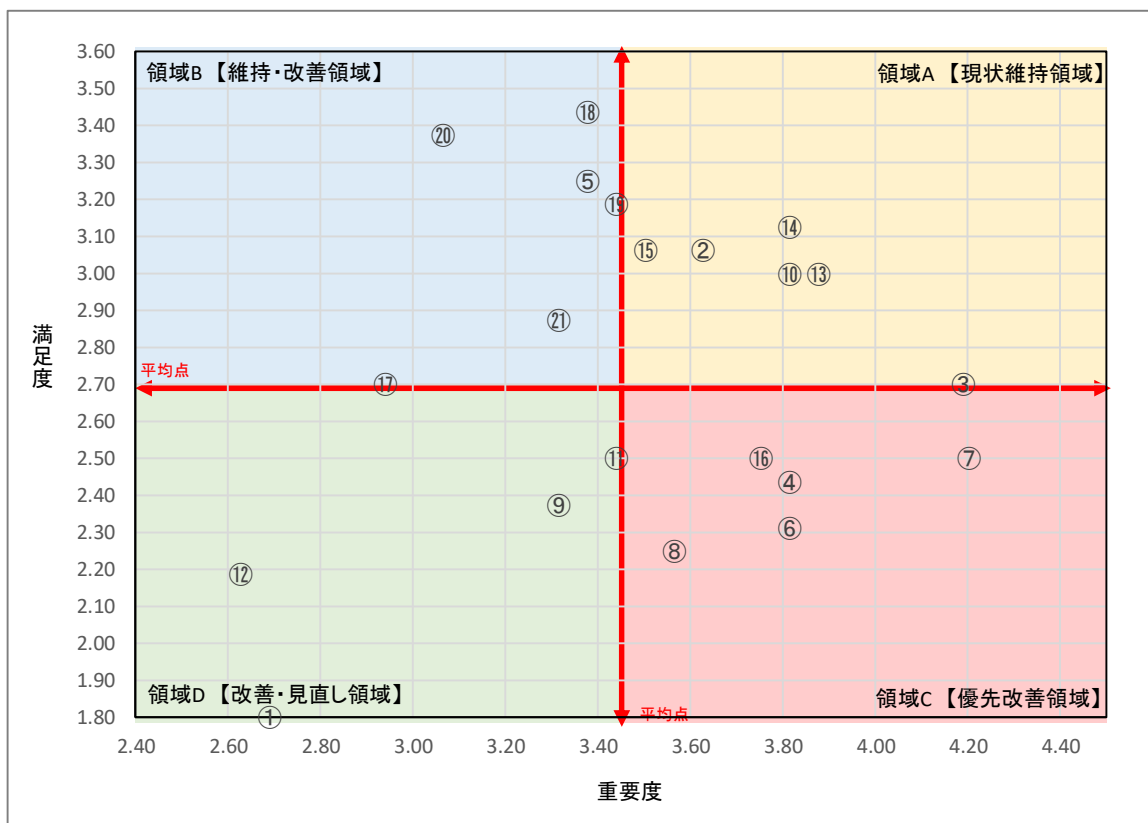
■満足度は低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	<ul style="list-style-type: none"> ⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑯河川や水路などの水のきれいさ ⑰市街地のまちなみなどの身近な景観 ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ 	【現状維持領域】 領域A	<ul style="list-style-type: none"> ②住宅地のまちなみや環境の良さ ③通勤・通学の便利さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道 ㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性
【改善・見直し領域】 領域D	<ul style="list-style-type: none"> ①新築向けの住宅地の充実 ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑰公園の利用しやすさ 	【優先改善領域】 領域C	<ul style="list-style-type: none"> ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑨観光施設の利用しやすさ ⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ

(9) 深谷地区

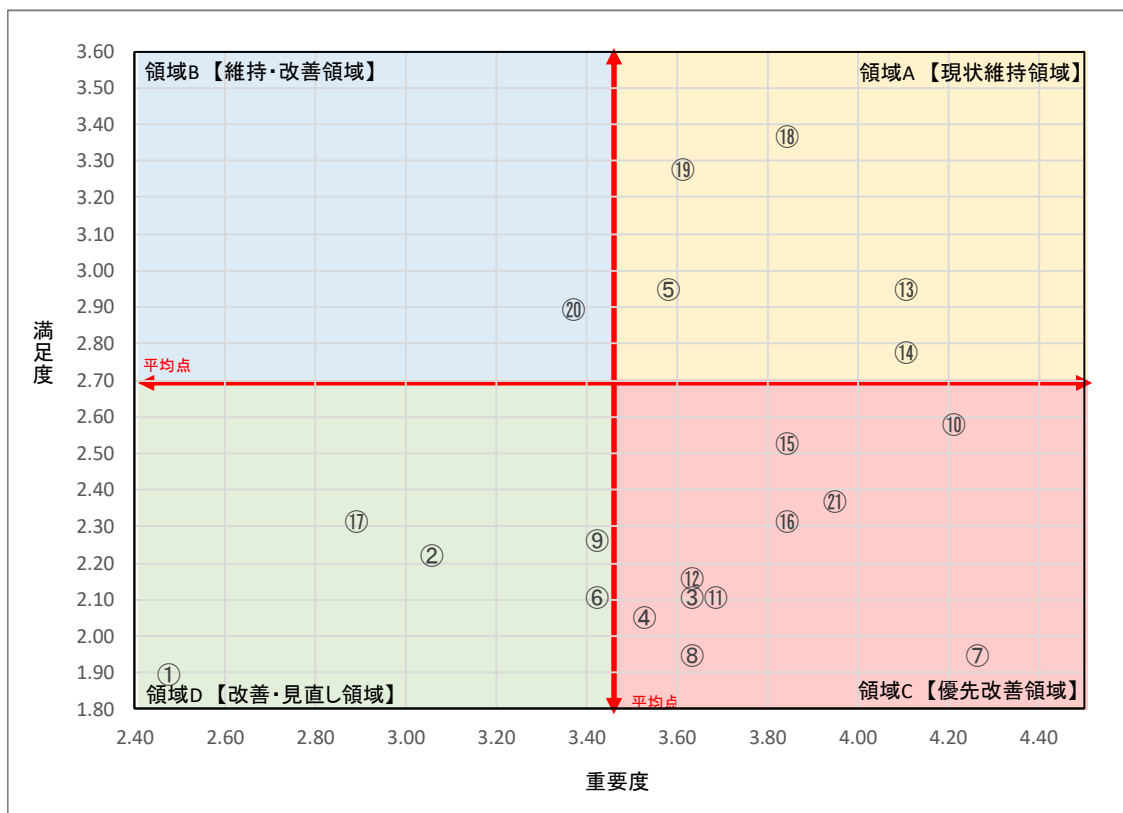
■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「④日常、歩いて買物ができる
 便利さ」「⑥白石駅周辺の中心街の利用しやすさ」「⑦働く場所としての工場・事務所の充
 実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」が
 該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑯公園の利用しやすさ ⑱河川や水路などの水のきれいさ ⑲市街地のまちなみなどの身近な景観 ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の 美しさ ㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性	【現状維持領域】 領域A	②住宅地のまちなみや環境の良さ ③通勤・通学の便利さ ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道
【改善・見直し領域】 領域D	①新築向けの住宅地の充実 ⑨観光施設の利用しやすさ ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ	【優先改善領域】 領域C	④日常、歩いて買物ができる便利さ ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ

(10) 小原地区

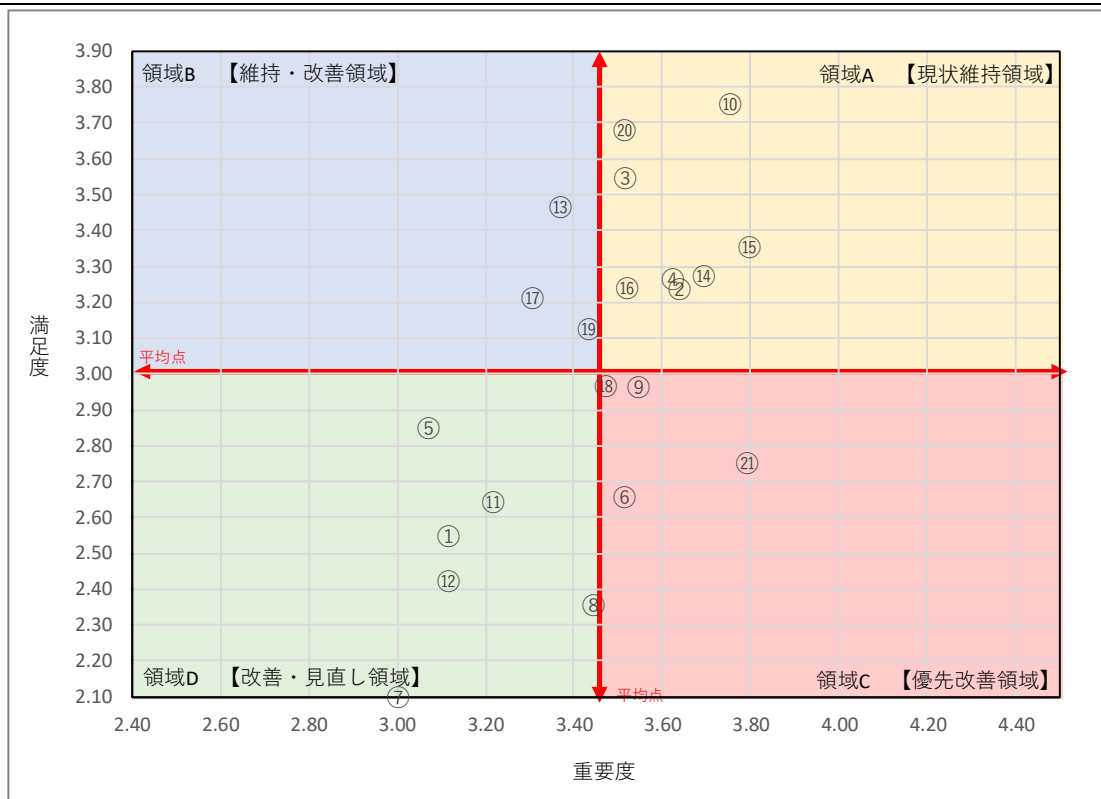
■満足度が低く、重要度が高い領域 C【優先改善領域】には、「③通勤・通学の便利さ」「④日常、歩いて買い物ができる便利さ」「⑦働く場所としての工場・事務所の充実」「⑧娯楽・レジャー施設の充実」「⑩病院などの医療施設の利用しやすさ」「⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ」「⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ」「⑮安心して歩ける歩道」「⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ」「⑳地震や水害などの自然災害に対する安全性」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ	【現状維持領域】 領域A	⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑭身近な道路の安全性 ⑱河川や水路などの水のきれいさ ⑲市街地のまちなみなどの身近な景観
【改善・見直し領域】 領域D	①新築向けの住宅地の充実 ②住宅地のまちなみや環境の良さ ⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ ⑨観光施設の利用しやすさ ⑰公園の利用しやすさ	【優先改善領域】 領域C	③通勤・通学の便利さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ ⑮安心して歩ける歩道 ⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ ㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性

(11) 市全体【中学生】

■満足度が低く、重要度が高い領域C【優先改善領域】には、「⑥白石駅周辺の中心商店街の利用しやすさ」「⑨観光施設の利用しやすさ」「⑱河川や水路などの水のきれいさ」「㉑地震や水害などの自然災害に対する安全性」が該当します。



	項目		項目
【維持・改善領域】 領域B	⑬移動がスムーズな幹線道路の充実 ⑰公園の利用しやすさ ⑲市街地のまちなみなどの身近な景観	【現状維持領域】 領域A	②住宅地のまちなみや環境の良さ ③通勤・通学の便利さ ④日常、歩いて買い物ができる便利さ ⑩病院など医療施設の利用しやすさ ⑭身近な道路の安全性 ⑮安心して歩ける歩道 ⑯バスや鉄道などの公共交通機関の利用しやすさ ⑳山・川・農地などの自然景観や身近な自然環境の美しさ
	【改善・見直し領域】 領域D		①新築向けの住宅地の充実 ⑤まちなかの駐車場の便利さ ⑦働く場所としての工場・事業所の充実 ⑧娯楽・レジャー施設の充実 ⑪保育所など子育て支援施設の利用しやすさ ⑫高齢者などの福祉施設の利用しやすさ